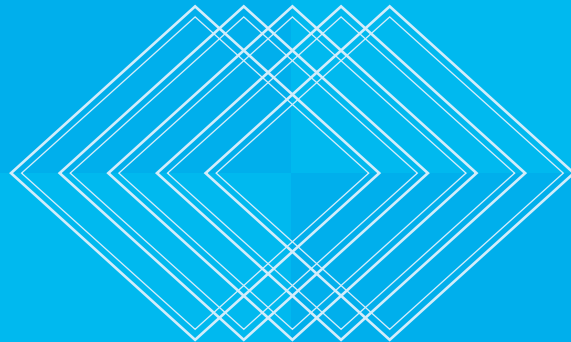


第10回 東北大学全学教育FD

— 報告書 —



平成28年3月

東北大学学務審議会
高度教養教育・学生支援機構



東北大学

第10回東北大学全学教育FD 報告書発行にあたって

東北大学高度教養教育・学生支援機構副機構長

総長特別補佐・学務審議会副委員長

羽 田 貴 史

第10回全学教育FDは、“東北大学の英語教育”をテーマに開催しました。特定の科目を対象にしたFDはこの10年間で初めてのことではないかと思います。語学関係の教員しか参加しないのではないかと、少し心配しながらの企画でしたが、例年と変わらぬ参加者があり、英語教育についての関心が高いことを改めて痛感しました。

英語教育というと、全学教育、学士課程教育前期で開講される科目のことをすぐ思い浮かべますが、専門教育で英語を使わない学部はなく、また、海外への留学や海外からの留学生との交流など、大学で専門を学び、その力を活かした活動を広げるために英語力の向上は欠かせません。今回のFDは、工学部・医学での独自の取り組みを報告していただき、全学教育と学部教育をどう連結させて学士課程教育全体で英語力を高めるかという大きなデザインの粗いスケッチが得られたように思います。

しかし、学部での英語学習は、もっぱら専門の学問を学ぶためのものであり、人文・社会科学の分野はともかく、自然科学の分野では、文化教育の側面が狭い範囲に焦点化され、「聴く・読む・話す・書く」4分野の技能がバランスよく習得されるための構造化も必要であり、言語活動がすべて思考と自己表出という機能を持つ以上、英語を学習するのではなく、英語によって学習すること、さらに、学習することは自己表出でもあるという点から、教授方法論も極めて重要です。日本人の学生はシャイとよく言われますが、その中でも東北大学の学生は、とりわけシャイ度に抜きんでいるらしいのは自他ともに認めるところ(?)、従って、積極的な参加を促す教授方法論の開発と普及が求められます。この点は、東北大学高度教養教育・学生支援機構のトッド・エンスレン講師から、ネイティブ教員としての経験と観察にもとづく報告もありました。

実は、当初予定していた講師のうち2人が、直前になってインフルエンザなどやむをえない事情で報告できなくなり、主催者としては大変苦慮したのですが、急な依頼にもかかわらず、講師の方々は快く引き受けて下さり、無事終えることもできました。この場を借りて、感謝申し上げます。また、中心になって企画・運営された教育情報・評価改善委員会のメンバーの方々、報告書の編集・刊行の任を担った教育・学生支援部教務課教育企画係、東北大学高度教養教育・学生支援機構事務室及び葛生准教授にもお礼申し上げます。

当日参加されなかった方も是非報告書をお読みになり、研究や教育、支援に役立てていただけたら幸いです。

第10回東北大学全学教育FD

日 時：平成28年3月8日（火） 14:00～17:00

会 場：川内北キャンパス マルチメディア棟M206

参加者：平成28年度全学教育担当教員（非常勤講師を含む）

テーマ：“東北大学の英語教育”

スケジュール：

司会 教育情報・評価改善委員会委員 吉信達夫

1. 開会挨拶 14:00

学務審議会委員長 花輪公雄

2. オリエンテーション 14:10

教育情報・評価改善委員会委員長 笹野泰之

3. 「全学教育における英語教育」 14:25

高度教養教育・学生支援機構副機構長(言語・文化教育センター長) 安藤 晃

4. 「工学英語教育の総合戦略」 14:40

工学研究科(工学教育院)特任准教授 須藤祐子

(休 憩 15:10)

司会 教育情報・評価改善委員会委員長 笹野泰之

5. 「医学科の専門英語教育」 15:25

医学系研究科(医学教育推進センター)准教授 石井誠一

6. 「Implementing a Four Skills English Discussion Class:

Reasons, Challenges, and Rewards」 15:55

高度教養教育・学生支援機構(教育内容開発部門)講師 トッド・エンスレン

7. 質疑応答 16:25

8. 閉会挨拶 16:50

高度教養教育・学生支援機構副機構長 羽田貴史

主催：学務審議会教育情報・評価改善委員会
高度教養教育・学生支援機構

第 10 回東北大学全学教育 F D 実施要項

1. 目的

- (1) 東北大学全学教育の基本理念を理解・共有することで、教員が教育活動を行う上での指針を明確にすること
- (2) 優れた教育実践を共有し、教員が修学を指導・支援する上で有益な情報を得ること
- (3) 全学教育の充実・改善課題と方向を明確にし、教員の教育改善に生かすこと

2. 日時・場所

平成 28 年 3 月 8 日（火）14:00～17:00 マルチメディア教育研究棟 M206

3. テーマ “東北大学の英語教育”

4. スケジュール

司会 教育情報・評価改善委員会委員 吉信達夫

14 : 00 開会挨拶 学務審議会委員長 花輪公雄

14 : 10 オリエンテーション 教育情報・評価改善委員会委員長 笹野泰之

14 : 25 「全学教育における英語教育」
高度教養教育・学生支援機構副機構長(言語・文化教育センター長) 安藤 晃

14 : 55 「工学英語教育の総合戦略」
工学研究科(工学教育院) 特任准教授 須藤祐子

15 : 25 休憩

司会 教育情報・評価改善委員会委員長 笹野泰之

15 : 40 「医学科の専門英語教育」
医学系研究科(医学教育推進センター) 准教授 石井誠一

16 : 10 「Implementing a Four Skills English Discussion Class:
Reasons, Challenges, and Rewards」
高度教養教育・学生支援機構(教育内容開発部門) 講師 トッド・エンスレン

16 : 40 全体を通しての質疑応答

16 : 50 閉会挨拶 高度教養教育・学生支援機構副機構長 羽田貴史

第10回東北大学全学教育FD参加者数一覧

部局	参加者数(名)
委員・全体会講師等	8
文学研究科・文学部	1
教育学研究科・教育学部	2
法学研究科・法学部	0
経済学研究科・経済学部	0
理学研究科・理学部	9
医学系研究科・医学部	9
歯学研究科・歯学部	1
薬学研究科・薬学部	1
工学研究科・工学部	4
農学研究科・農学部	3
国際文化研究科	12
情報科学研究科	4
生命科学研究科	1
環境科学研究科	0
医工学研究科	1
教育情報学研究部	0
金属材料研究所	2
加齢医学研究所	0
流体科学研究所	2
電気通信研究所	0
多元物質科学研究所	1
災害科学国際研究所	1
東北アジア研究センター	3
高度教養教育・学生支援機構	19
国際高等研究教育機構	0
学術資源研究公開センター史料館	0
教育情報基盤センター	1
サイクロトン・RIセンター	1
国際交流センター	0
教養教育院	0
国際教育院	0
特任教授	0
非常勤講師	18
他大学等オブザーバー	4
計	108



司 会
教育情報・評価改善委員会委員 吉信 達夫



開 会 挨 拶
学務審議会委員長 花輪 公雄



オリエンテーション
教育情報・評価改善委員会委員長 笹野 泰之



「全学教育における英語教育」
高度教養教育・学生支援機構副機構長 安藤 晃



「工学英語教育の総合戦略」
工学研究科(工学教育院)特任准教授 須藤 祐子



「医学科の専門英語教育」
医学系研究科(医学教育推進センター)准教授 石井誠一



「Implementing a Four Skills English Discussion
Class: Reasons, Challenges, and Rewards」
高度教養教育・学生支援機構講師 トッド・エンスレン



閉 会 挨 拶
高度教養教育・学生支援機構副機構長 羽田 貴史



研修風景 1



研修風景 2

第10回 東北大学全学教育FD

主催：学務審議会

2016年3月8日(火), 14:00~17:00

マルチメディア教育研究棟, M206



開会挨拶

学務審議会 委員長
花輪 公雄

開催の目的・テーマ・プログラム

< 目 的 >

- (1) 東北大学全学教育の基本理念を理解・共有することで、教員が教育活動を行う上での指針を明確にすること
- (2) 優れた教育実践を共有し、教員が修学を指導・支援する上で有益な情報を得ること
- (3) 全学教育の充実・改善課題と方向を明確にし、教員の教育改善に生かすこと

< 今回のテーマ >

「東北大学の英語教育」

< プログラム >

14:00 開会挨拶

14:10 オリエンテーション

14:25 「全学教育における英語教育」

14:55 「工学英語教育の総合戦略」

(15:25 休憩)

15:40 「医学科の専門英語教育」医学系研究科(医学教育推進センター) 准教授 石井誠一

16:10 「Implementing a Four Skills English Discussion Class: Reasons, Challenges, and Rewards」

高教機構(教育内容開発部門) 講師 トッド・インズレン

16:40 全体を通しての質疑応答

16:50 閉会挨拶

学務審議会委員長 花輪公雄

教育情報・評価改善委員会委員長 笹野泰之

高教機構 副機構長 安藤晃

工学研究科(工学教育院) 特任准教授 須藤祐子

高教機構 副機構長 羽田貴史

東北大学全学教育FDの報告書・動画

開催年の秋ごろをめに
報告書を発行(ウェブで
も掲載)。
また、動画(平成26年度か
ら)を配信。

<アクセスの仕方>

本学トップページ

- => 教育・学生支援
- => 全学教育
- => 教員への情報
- => FD関連
- => 報告書



ただし、平成23年
(第5回)は震災のため
開催していない。



全学教育のURL：全学教育に関する情報発信サイト

<http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku.html>

<アクセスの仕方>
本学トップページ
=> 教育・学生支援
=> 全学教育

What's New || 新着情報一覧

2016/3/4	学生への情報	平成28年度基礎ゼミの履修について(2年生以上)(PDF) 掲載
2016/3/2	学生への情報	平成27年度全学教育科目後期セメスター「成績確認」及び平成28年度全学教育科目前期セメスター「履修手続」について(PDF) 掲載
2016/3/2	学生への情報	平成28年度学年暦(PDF) 掲載
	教員への情報	

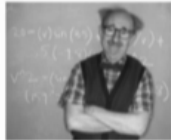
<http://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku.html>

TOPICS

Practical English Course
受講者募集

動画によるオリエンテーション

東北大学全学教育担当者のための オリエンテーション: 歴史・理念・仕組み・課題



東北大学高等教育開発推進センター大学教育支援センター長
東北大学学務審議会 教育情報・評価改善委員会委員長 羽田貴史

約30分間の動画です。

講師
羽田 貴史 教授

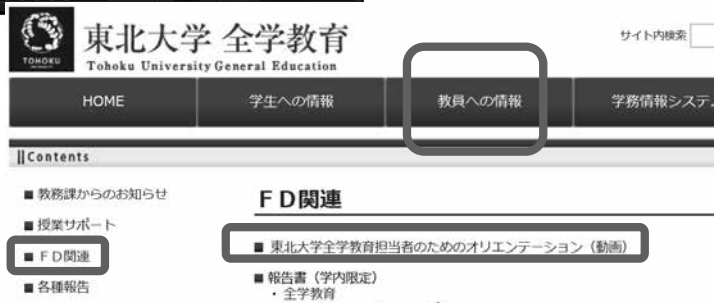
採録時
高等教育開発推進センター
大学教育支援センター長
学務審議会／教育情報・
評価改善委員会 委員長

現在
高度教養教育・学生支援機
構 副機構長
学務審議会 委員

<アクセスの仕方>

本学トップページ

- => 教育・学生支援
- => 全学教育
- => 教員への情報
- => FD関連
- => オリエンテーション（動画）



全学教育ガイド：全学教育への理解を求めて



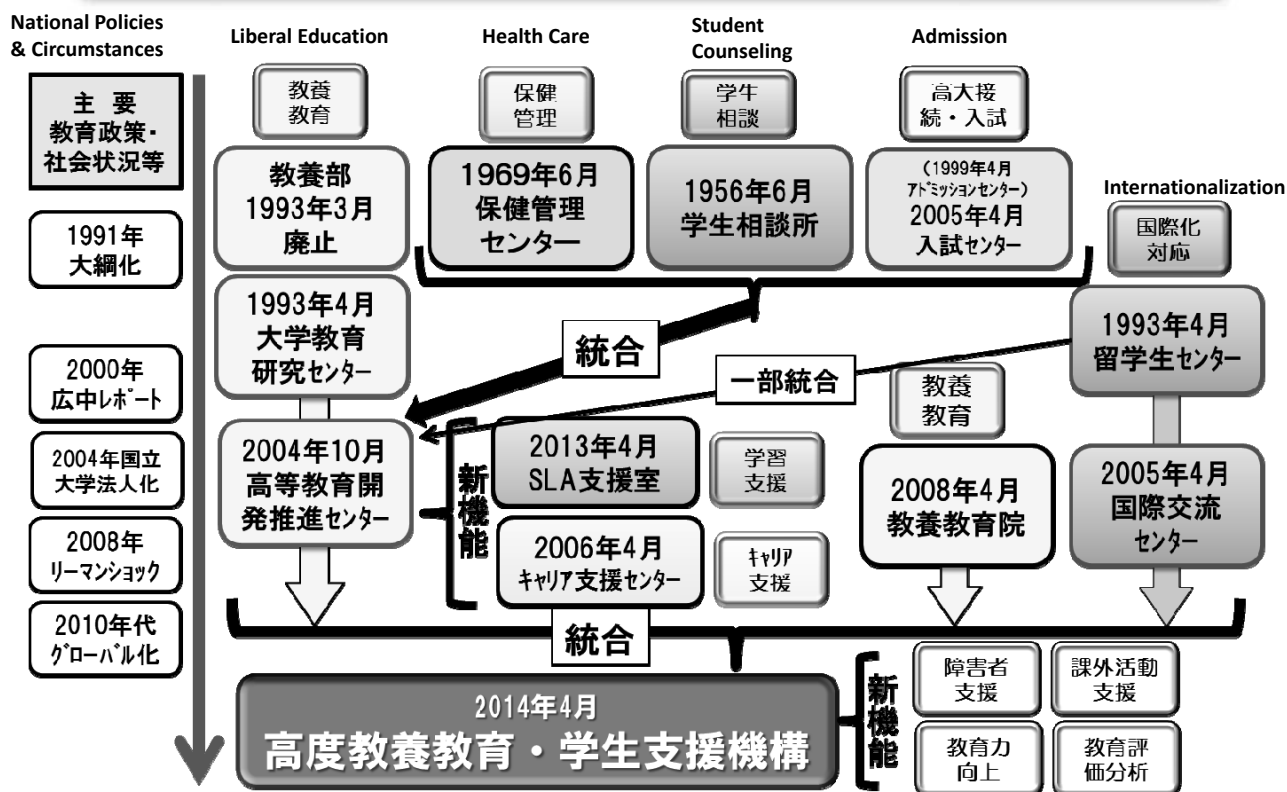
全学教育への理解を求めて
2013年度より発行
新入生と全教員に配布

【巻頭言】

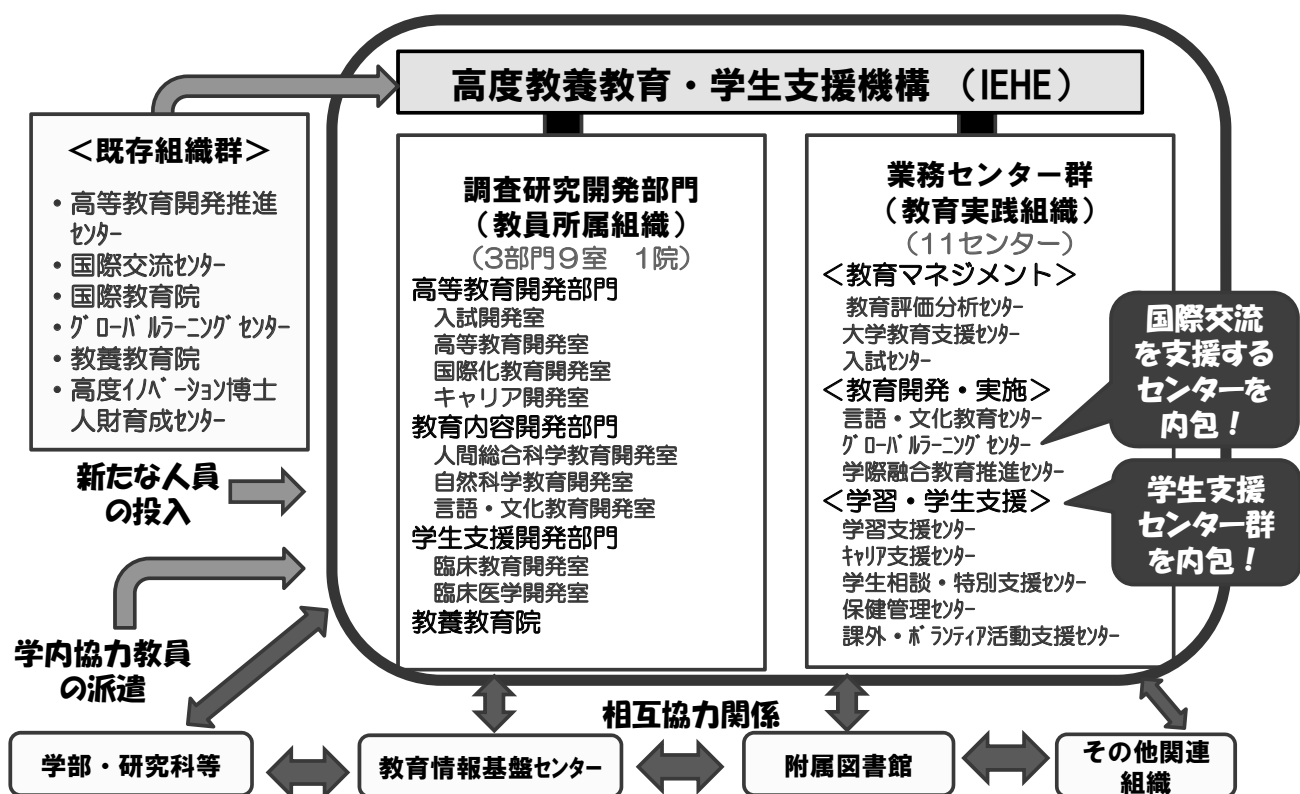
2013年度：全学教育の位置づけ～それは教養を身につける教育～
2014年度：「高度教養教育・学生支援機構」が設置されました！
2015年度：豊かな実りを得るためには、確かな土壌の準備を！
2016年度：最先端の専門的知識とそれらを活用する力を得るために

全学教育を担う組織の整備：高度教養教育・学生支援機構の設置

Institute for Excellence in Higher Education (IEHE)



高度教養教育・学生支援機構の組織概要



The great teacher inspires ! : 学生の心に火をつけてください !

**The mediocre teacher tells.
The good teacher explains.
The superior teacher demonstrates.
The great teacher inspires.**

(William Arthur Ward, 1921-1994)

凡庸な教師はただしゃべる。
よい教師は説明する。
すぐれた教師は自らやってみせる。
そして、偉大な教師は心に火をつける。

(訳 西澤 潤一(本学第17代総長))



1. オリエンテーション

教育情報・評価改善委員会委員長
笹野 泰之

第10回東北大学全学教育FD

「オリエンテーション」

教育情報・評価改善委員会
笹野 泰之

1

1. 目的

- (1) 東北大学全学教育の基本理念を理解・共有することで、教員が教育活動を行う上での指針を明確にすること
- (2) 優れた教育実践を共有し、教員が修学を指導・支援する上で有益な情報を得ること
- (3) 全学教育の充実・改善課題と方向を明確にし、教員の教育改善に生かすこと

2

東北大学全学教育担当者のための
オリエンテーション:
歴史・理念・仕組み・課題



東北大学高等教育開発推進センター・大学教育支援センター長
東北大学学務部長 教育情報・評価改善委員会委員長 山田貴史



https://xapp.istu.jp/vod/106200/115288/267/FlashMediaServer_FlashPlayerMP4.html

3

第10回東北大学全学教育FD

「東北大学の英語教育」

4

「全学教育における実践英語教育」

高度教養教育・学生支援機構
(教育内容開発部門) 教授
北原 良夫

外国語委員会委員長
高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育
センター長 教授
安藤 晃

5

「工学英語教育の総合戦略」

工学研究科 (工学教育院)
特任准教授 須藤祐子

「医学科の専門英語教育」

医学系研究科 (医学教育推進センター)
准教授 石井誠一

6

“Implementing a Four Skills English Discussion Class: Reasons, Challenges, and Reward”

高度教養教育・学生支援機構
(教育内容開発部門)
講師 トッド・エンスレン Todd Enslin

7

全学教育を担当される先生方へのお願い

8

「クラス指定の同一名称科目」の成績評価

「クラス指定の同一名称科目」(「基礎ゼミ」と受講生20名以下の少人数教育を除く)は、同一の学習到達目標と内容を持つ科目が、学生の適正規模を確保するために、複数の担当者による複数クラス開講として行われ、学生が選択の余地なく受講クラスが指定されているものである。

※「履修クラス指定授業科目」(平成24年度)

数学概論B、数学概論C、解析学概要、解析学A、解析学B、解析学C、
解析学D、線形代数概論、線形代数学A、線形代数学B、数理統計学、
物理学A、物理学B、物理学C、物理学D、自然科学総合実験、
化学A、化学B、化学C、英語A1、英語A2、英語B1、英語B2、
スポーツA、スポーツB

こうした科目の性格に鑑み、成績評価の結果がクラス間で著しく異なることがないよう、科目委員会において、クラス間の成績分布を担当教員間で協議し、評価の方法や水準についての共通理解を図り、成績分布の調整を行うなどの方策を取るようになる。

※「参考となる取り組み」

全学教育外国語委員会英語部会では、AA=評価Aの中で特に優秀な3分の1程度、A=クラス全体の上位30%程度、BおよびC=ある程度バランスを保つことD=評価基準と人数について特に配慮すること、と基準比率を定め実施している。また工学部機械・知能系では、教務委員会が「AA:A:B:C=1:2:4:3」で採点することを提案している。評価改善委員会の議論では、AA=1～2割程度、A=2～3割程度、B=2から4割程度、C=1～2割程度、D=2割以下、という意見もある。

9

時間割コード	セマ	科目名	AA	A	B	C	D	計
X学部 1組	X	英語 X	12 15.6%	14 18.2%	36 46.8%	11 14.2%	4 5.2%	77
X学部 2組	X	英語 X	4 10.0%	10 25.0%	12 30.0%	14 35.0%	0 0.0%	40
X学部 3組	X	英語 X	0 0.0%	11 28.2%	25 64.1%	3 7.7%	0 0.0%	39
X学部 4組	X	英語 X	4 10.3%	17 43.8%	12 30.8%	6 15.4%	0 0.0%	39
X学部 5組	X	英語 X	8 22.9%	18 51.4%	7 20.0%	0 0.0%	2 5.7%	35
X学部 6組	X	英語 X	2 6.7%	10 33.3%	12 40.0%	4 13.2%	2 6.7%	30
X学部 7組	X	英語 X	7 21.9%	15 46.9%	9 28.1%	1 3.1%	0 0.0%	32
X学部 8組	X	英語 X	3 9.4%	5 15.6%	9 28.1%	10 31.2%	5 15.6%	32
X学部 9組	X	英語 X	3 9.4%	7 21.9%	17 53.1%	5 15.6%	0 0.0%	32
X学部10組	X	英語 X	4 12.5%	7 21.9%	19 59.4%	2 6.2%	0 0.0%	32

10

全学教育科目の成績評価ガイドライン

(1) 成績評価ガイドライン設定の趣旨

成績評価は、学生の学習成果を測定し当該科目の習得状況を把握して単位修得を認定するものであり、大学教育のレベルを客観的に保証する役割を持つ。

また、成績評価は、学生にとっては自己の学習活動を振り返り、教員にとっては自己の教育活動と効果を把握する形成的な役割も持ち、客観的で公平な成績評価を実施することは教育の質保証にとって必須の条件である。

全学教育は大学教育の入り口に位置し、学生が大学での学習習慣を身につける重要な機会であり、学期によっては全学教育科目自身の成績を活用して研究費選択の選抜資料に利用することもあり、後期校のある評価が求められている。全学教育における成績評価の考え方を明確にし、教員・学生間で共有することが必要である。

特に、同一科目のクラス指定授業(詳細「履修クラス指定授業科目一覧(参照)」において担当教員間で成績評価の結果が著しく異なることは、成績評価への不信をもたらすもので、その解決は学生側からも教員側からも急務の要請となっている。

そこで、①到達度評価としての成績評価の明確化、②科目群ごとの成績評価の考え方の共有化、③クラス指定科目における成績分布の設定、の3項目から成る本ガイドラインを作成することによって、厳格で公平な成績評価をさらに推進するうえでの一助とする。

(2) 成績評価の基本的考え方

①到達度評価としての成績評価の実施

各授業科目における成績評価は、担当教員がシラバスで提示した学習到達目標を基準に、その目標に対してどれだけ達成したかの程度にもとづく「到達度評価」として実施する。

②科目ごとの成績評価のあり方の共通理解

教員が学習到達目標をどのレベルに設定するかは、成績評価を行う際の重要なポイントであり、かつ、その目標設定の仕方によって成績評価の分布の形状等が大きく異なってしまう。個々の授業実施と成績評価の責任は教員個人に属するが、教育は大学としての組織的営みであり、各科目における成績評価のあり方は、科目ごとに全学教育の理念をふまえて共有化していくことが望ましい。

そのため、科目委員会は当該科目の特性に照して、担当教員による適切な成績評価が実施されるように検討し、担当教員間で共有するように促進することとする。

科目委員会は、学生の属する学部や入学前の学習歴及び科目の特性を把握し入れて、同一名称の科目の学習到達目標、到達すべき水準を明確にし、担当教員間で共有できるようにする。

11

③「クラス指定の同一名称科目」の成績評価

「クラス指定の同一名称科目」(「基礎ゼミ」と受講生20名以下の少人数教育を除く)は、同一の学習到達目標と内容を持つ科目が、学生の適正規模を確保するために、複数の担当者による複数クラス開講として行われ、学生が選択の余地なく受講クラスが指定されているものである。

※「履修クラス指定授業科目」(平成24年度)

数学概論B、数学概論C、解析学概要、解析学A、解析学B、解析学C、
解析学D、線形代数概論、線形代数学A、線形代数学B、数理統計学、
物理学A、物理学B、物理学C、物理学D、自然科学総合実験、
化学A、化学B、化学C、英語A1、英語A2、英語B1、英語B2、
スポーツA、スポーツB

こうした科目の性格に鑑み、成績評価の結果がクラス間で著しく異なることがないよう、科目委員会において、クラス間の成績分布を担当教員間で協議し、評価の方法や水準についての共通理解を図り、成績分布の調整を行うなどの方策を取るようになる。

※「参考となる取り組み」

全学教育外国語委員会英語部会では、AA=評価Aの中で特に優秀な3分の1程度、A=クラス全体の上位30%程度、BおよびC=ある程度バランスを保つことD=評価基準と人数について特に配慮すること、と基準比率を定め実施している。また工学部機械・知能系では、教務委員会が「AA:A:B:C=1:2:4:3」で採点することを提案している。評価改善委員会の議論では、AA=1～2割程度、A=2～3割程度、B=2から4割程度、C=1～2割程度、D=2割以下、という意見もある。

※注意事項

「クラス指定の同一名称科目」(「基礎ゼミ」と受講生20名以下の少人数教育を除く)は、同一の学習到達目標と内容を持つ科目が、学生の適正規模を確保するために、複数の担当者による複数クラス開講として行われ、学生が選択の余地なく受講クラスが指定されているものですので、学生から申請があっても特別な事情がない限り、他クラスへの移転は、原則お認めにならないようにお願いします。

12

全学教育科目の成績評価ガイドライン

平成24年11月5日 学務審議会

(1) 成績評価ガイドライン設定の趣旨

成績評価は、学生の学習成果を測定し当該科目の習得状況を把握して単位修得を認定するものであり、大学教育のレベルを客観的に保証する役割を持つ。

また、成績評価は、学生にとっては自己の学習活動を振り返り、教員にとっては自己の教育活動と効果を把握する形成的な役割も持ち、客観的で公平な成績評価を実施することは教育の質保証にとって必須の条件である。

全学教育は大学教育の入り口に位置し、学生が大学での学習習慣を身につける重要な機会であり、学部によっては全学教育科目の成績を活用して研究室選択の選抜資料に利用することもあり、信頼性のある評価が求められている。全学教育における成績評価の考え方を明確にし、教員・学生間で共有することが必要である。

特に、同一科目のクラス指定授業（別掲「履修クラス指定授業科目一覧」参照）において担当教員間で成績評価の結果が著しく異なることは、成績評価への不信をもたらすもので、その解決は学生側からも教員側からも急務の要請となっている。

そこで、①到達度評価としての成績評価の明確化、②科目群ごとの成績評価の考え方の共有化、③クラス指定科目における成績分布の設定、の3項目から成る本ガイドラインを作成することによって、厳格で公平な成績評価をさらに推進するうえでの一助とする。

(2) 成績評価の基本的考え方

①到達度評価としての成績評価の実施

各授業科目における成績評価は、担当教員がシラバスで提示した学習到達目標を基準に、その目標に対してどれだけ達成したかの程度にもとづく「到達度評価」として実施する。

②科目ごとの成績評価のあり方の共通理解

教員が学習到達目標をどのレベルに設定するかは、成績評価を行う際の重要なポイントであり、かつ、その目標設定の仕方によって成績評価の分布の形状等が大きく異なってしまう。個々の授業実施と成績評価の責任は教員個人に属するが、教育は大学としての組織的営みであり、各科目における成績評価のあり方は、科目ごとに全学教育の理念をふまえて共有化していくことが望ましい。

そのため、科目委員会は当該科目の特性に即して、担当教員による適切な成績評価が実施されるように検討し、担当教員間で共有するように促進することとする。

科目委員会は、学生の属する学部や入学前の学習歴及び科目の特性を視野に入れて、同一名称の科目の学習到達目標、到達すべき水準を明確にし、担当教員間で共有できるようにする。

③「クラス指定の同一名称科目」の成績評価

「クラス指定の同一名称科目」（「基礎ゼミ」と受講生 20 名以下の少人数教育を除く）は、同一の学習到達目標と内容を持つ科目が、学生の適正規模を確保するために、複数の担当者による複数クラス開講として行われ、学生が選択の余地なく受講クラスが指定されているものである。

＊「履修クラス指定授業科目」（平成 24 年度）

数学概論 B, 数学概論 C, 解析学概要, 解析学 A, 解析学 B, 解析学 C,
解析学 D, 線形代数学概要, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 数理統計学,
物理学 A, 物理学 B, 物理学 C, 物理学 D, 自然科学総合実験,
化学 A, 化学 B, 化学 C, 英語 A1, 英語 A2, 英語 B1, 英語 B2,
スポーツ A, スポーツ B

こうした科目の性格に鑑み、成績評価の結果がクラス間で著しく異なることがないよう、科目委員会において、クラス間の成績分布を担当教員間で論議し、評価の方法や水準についての共通理解を図り、成績分布の調整を行うなどの方策を取るようにする。

＊「参考となる取り組み」

全学教育外国語委員会英語部会では、AA=評価 A の中で特に優秀な 3 分の 1 程度、A=クラス全体の上位 30%程度、B および C=ある程度バランスを保つこと、D=評価基準と人数について特に配慮すること、と基準比率を定め実施している。また工学部機械・知能系では、教務委員会が「AA : A : B : C = 1 : 2 : 4 : 3」で採点することを提案している。評価改善委員会の議論では、AA=1～2 割程度、A=2～3 割程度、B=2 から 4 割程度、C=1～2 割程度、D=2 割以下、という意見もある。

※注意事項

「クラス指定の同一名称科目」（「基礎ゼミ」と受講生 20 名以下の少人数教育を除く）は、同一の学習到達目標と内容を持つ科目が、学生の適正規模を確保するために、複数の担当者による複数クラス開講として行われ、学生が選択の余地なく受講クラスが指定されているものですので、学生から申請があっても特別な事情がない限り、**他クラスへの移動は、原則お認めにならないようにお願いします。**

科目名	開講クラス	1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		合計	
		クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数
数学概論B	文系	3	71							4	3
	保(看)	1	67								1
数学概論C	文系			3	80					3	3
解析学概要	医保(放・検)歯薬農			4	301					5	4
	G30			1	5						1
解析学A	理	4	307								4
	理(生物)保(放)	1	42								1
	工(1-5,15-16組)	5	406							18	5
	工(6-14組)	7	558								7
	G30			1	31						1
解析学B	理			4	321						4
	理(生)保(放)			1	52						1
	工(1-5,15-16組)			5	403					18	5
	工(6-14組)			7	569						7
	G30					1	24				1
解析学C	理					2	217				2
	工(1-5,15-16組)					4	341			12	4
	工(6-14組)					5	360				5
	G30							1	34		1
解析学D	理					3	238			5	3
	工(1-5,11-16組)							2	62		2
線形代数学概要	理(生物)医保(放・検)薬農	4	328								4
	医	1	2							7	1
	歯					※ 1	9				1
	G30			1	9						1
線形代数学A	理	5	396							17	5
	工(1-5,15-16組)	5	376								5
	工(6-14組)	6	535								6
	G30			1	35						1
線形代数学B	理			5	355						5
	工(1-5,15-16組)			5	387					17	5
	工(6-14組)			6	516						6
	G30					1	12				1
数理統計学	理					3	279				3
	医	2	128								2
	保					1	86				1
	薬農					2	137			13	2
	歯					1	54				1
	工(1-5,15-16組)					1	45				1
	工(6-14組)					2	139				2
	G30							1	14		1
物理学A	理(化生)	1	120								1
	理(数地)	1	99								1
	理(物理2組)	1	64								1
	理(物理3組)	1	63								1
	医	1	108								1
	保歯	2	192							22	2
	薬	1	84								1
	工(1-5,15-16組)	4	403								4
	工(6-14組)	6	513								6
	農	3	155								3
	G30			1	26						1
物理学B	理(化生)			1	81						1
	理(数地)			1	90						1
	理(物理2組)			1	63						1
	理(物理3組)			1	64						1
	医歯			1	56						1
	保薬農			1	98						1
	工(1-5,15-16組)			4	388						4
	工(6-14組)			5	432						5
	G30					1	30				1
物理学C	理(数化地生)					1	132				1
	理(物理2組)					1	68				1
	理(物理3組)					1	70				1
	医保歯薬農					1	24			10	1
	工(1-5,11-12組)					2	180				2
	工(6-10,13-16組)					3	164				3
	G30					1	23				1
物理学D	理(化)保					※ 1	6				1
	理(数化地生)医歯薬農	1	118								1
	理(物理2組)	1	64							8	1
	理(物理3組)	1	64								1
	工(1-5組)	2	272								2
	工(13-16組)	2	183								2
自然科学総合実験	理			1	298						1
	医保歯	1	194								1
	薬農			1	250						1
	工(1-5,15組)	1	337							7	1
	工(11-14組)			1	261						1
	工(6-10,16組)	1	316								1
	G30					1	23				1

科目名	開講クラス	1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		合計		
		クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	
化学A	理(化)	1	75							21	1	75
	理(数・物理2組)	1	92								1	92
	理(地・生)	1	101								1	101
	理(物理3組)	1	84								1	84
	医保	1	103								1	103
	歯	1	52								1	52
	薬	1	87								1	87
	工(1-5,11-12,15-16組)	6	518								6	518
	工(6-10,13-14組)	5	394								5	394
	農	2	157								2	157
	G30			1	22						1	22
化学B	理(化)			1	84					15	1	84
	理(数・物)					1	31				1	31
	理(地・生)					1	76				1	76
	医保歯			1	17						1	17
	薬			1	85						1	85
	工(6-14組)			6	379						6	379
	工(1-5,15-16組)					3	263				3	263
G30			1	23					1	23		
化学C	理(化)			1	92					15	1	92
	理(数・物)			1	90						1	90
	理(地・生)			1	91						1	91
	医保			1	53						1	53
	歯			1	56						1	56
	薬	1	95								1	95
	工(6-12組)					1	97				1	97
	工(11-12組)			1	123						1	123
	工(13-14組)					1	81				1	81
	工(1-5,15-16組)			3	286						3	286
	農			2	154						2	154
G30					1	11			1	11		
英語A1	文教	8	303							68	8	303
	法	5	177								5	177
	経	7	267								7	267
	理	9	352								9	352
	医	3	132								3	132
	保	4	142								4	142
	歯薬	4	138								4	138
	工(6-14組)	12	500								12	500
	工(1-5,15-16組)	10	397								10	397
	農	4	154								4	154
全	2	45							2	45		
英語A2	文教			8	307					70	8	307
	法			5	175						5	175
	経			7	262						7	262
	理			9	346						9	346
	医			3	133						3	133
	保			4	143						4	143
	歯薬			4	138						4	138
	工(6-14組)			12	503						12	503
	工(1-5,15-16組)			10	388						10	388
	農			4	155						4	155
全			4	118					4	118		
英語B1	文教	8	305							68	8	305
	法	5	177								5	177
	経	7	262								7	262
	理	9	349								9	349
	保	4	142								4	142
	医歯薬	6	268								6	268
	工(6-14組)	12	502								12	502
	工(1-5,15-16組)	10	389								10	389
	農	4	154								4	154
全	3	73							3	73		
英語B2	文教			8	307					68	8	307
	法			5	175						5	175
	経			7	265						7	265
	理			9	343						9	343
	保			4	142						4	142
	医歯薬			6	268						6	268
	工(6-14組)			12	497						12	497
	工(1-5,15-16組)			10	387						10	387
	農			4	153						4	153
全			3	85					3	85		
スポーツA	文教	4	162							47	4	162
	法			3	113						3	113
	経			6	264						6	264
	理			3	124						3	124
	保	3	141								3	141
	医歯薬	5	268								5	268
	工(1-5組)					5	271				5	271
	工(6-10組)					5	245				5	245
	工(11-12組)					3	132				3	132
	工(13-16組)					6	230				6	230
農			4	174					4	174		
スポーツB	全					8	152			12	8	152
	全							4	41	4	41	
	総計	244	14122	239	12691	75	4250	8	151	566	566	31214

※同時開講

2. 「全学教育における英語教育」

高度教養教育・学生支援機構副機構長
(言語・文化教育センター長)

安藤 晃

全学教育における英語教育

外国語教育の現状と課題

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
言語・文化教育センター長 安藤 晃

本学教育への外部評価

進学して伸びた大学

□ 研究型大学として、教育実績に対する高い評価
——> 意外な生徒が大きな仕事をしている驚き(高校教員の声)

□ 研究指導やきめ細かい教育指導とサポート → 語学教育については？
(教員と学生との距離感が近い)

高校からの評価(総合)

年度	1位	2位	3位
2016	東北大学	100	東京大学 83.5 京都大学 62.9
2015	東北大学	100	東京大学 79.4 京都大学 65.2
2014	東北大学	100	東京大学 80.1 京都大学 47.4
2013	東北大学	100	東京大学 95.2 京都大学 50.4
2012	東北大学	100	東京大学 88.9 大阪大学 42.9
2011	東北大学	100	東京大学 88.6 立命館大学 37.1
2010	東北大学	100	東京大学 89.9 慶應義塾 30.6
2009	東北大学	100	東京大学 92.4 慶應義塾 31.8
2008	東北大学	100	東京大学 77.8 立命館大学 59.9
2007	東北大学	100	京都大学 92 立命館大学 56.2
2006	東北大学	100	立命館大学 85.8 京都大学 78.1
2005	京都大学	100	東北大学 97.4 立命館大学 83.6

高校からの評価(進学して伸びた)

年度	1位	2位	3位
2016	東北大学	東北大学	京都大学
2015	東北大学	東北大学	京都大学
2014	東北大学	東京大学	大阪大学
2013	東北大学	東京大学	京都大学
2012	東北大学	東京大学	早稲田大学

総合評価: 11年連続 第1位
生徒の伸び: 8年連続 第1位
2008年から8年連続1位

東北大学 言語教育 外国語委員会

語学教育への期待と評価

『全学教育のカリキュラムに関するアンケート報告書』

- 英語をはじめとした外国語科目に対して「有意義である」と思う傾向が強い
- 留学をしたいという希望が増えている (TGL SGUプログラム)
- 英語の授業内容を実践的な英語環境のものにしてほしい
- ReadingやSpeakingだけでなく、理系英語の科学論文読解や英語によるプレゼン教育など多面的な取り組みを実施し、実践的英語力の強化に対応した教育について、強化してほしい(理系学部)

語学教育に対する期待は大きいですが、実際に能力が伸びたと思う割合が低い。

一生続く語学学習の姿勢を育てているか？
能動的な学習姿勢が来ているか？

学務審議会(東北大学高等教育開発推進センター)第1回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(速報版)(2013)
北海道大学、お茶の水女子大学など7大学(学生調査2012年報告書)(2013)

東北大学 全学教育 外国語委員会

TOEFL ITPスコア

CEFR	TOEFL ITP	2014 1 st -year	2014 2 nd -year
C1	637 - 677	630- : 0.4%	630- : 0.3%
B2	567 - 636	560- : 3.1%	560- : 1.6%
B1	487 - 566	480- : 46.4%	480- : 41.4%

CEFR : Common European Framework of Reference for Languages

B1 (Independent User)
Can understand the main points of clear standard input on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc. Can deal with most situations likely to arise whilst travelling in an area where the language is spoken. Can produce simple connected text on topics, which are familiar, or of personal interest. Can describe experiences and events, dreams, hopes & ambitions and briefly give reasons and explanations for opinions and plans.

社会生活での身近な話題について理解し、自分の意思とその理由を簡単に説明できる

東北大学 全学教育 外国語委員会

本学の語学教育体制

学務審議会
外国語委員会
カリキュラム専門部会
各語学ごとの専門部会
学習環境専門部会
施設運用小委員会
施設整備小委員会

言語・文化教育センター

- 全学教育への協力・改善策の実施(外国語委員会との連携)
- 学部・大学院にわたる体系的な語学教育(各部局との連携推進)
- グローバル大学に向けての語学教育の充実(英語教育の充実、留学生向け日本語教育の拡充など)
- 語学教育の充実に向けての取り組み(教員FDの実施、語学学習環境の改善、学習コンテンツの開発など)
- 教育交流活動(他大学との交流など)

全学教育における語学教育の責任ある実行と充実
教育内容の検討、カリキュラム策定、施設整備など

本学における語学教育全般への貢献とグローバル化への寄与
語学教育の充実、多文化理解、留学生派遣・受入促進活動への寄与など

東北大学 全学教育 外国語委員会

全学教育での段階的能力育成

学部1、2年生における英語教育

1年生を対象とした「英語A・英語B」と2年生を対象とした「英語C」は、大学生・社会人として必要とされる総合的な英語能力の養成を目指します。

英語A：英語総合演習(読解)

学術研究や国際社会の様々な領域で必要とされる英語読解力を精読、速読、または多読の演習を通して養成する。

英語B：英語総合演習(コミュニケーション)

主としてCALL教室での授業やネイティブ教員による授業を通して、リスニング/作文/コミュニケーション/プレゼンテーション等の技能訓練を行う。

英語C：英語実践演習

「英語A・B」で養った読解/リスニング/作文/コミュニケーション/プレゼンテーション等の能力をさらに発展させ、専門教育において必要とされる、より高度な英語読解力や英語による発信能力・コミュニケーション能力を養成する。

英語A, Bはクラス指定、英語Cは自由選択

東北大学 全学教育 外国語委員会

全学教育での段階的能力育成

TOHOKU

英語授業実践（例）

英語A1： 様々なジャンルの英文を読ませ、多読(Extensive Reading)等を利用しながら、語彙力・速読力の養成、および英文構造の感覚的習得。英文法の再復習による文法力や文章作成能力の養成。

英語B1： 発音とイントネーションの訓練(30%)と、WEBや映像を取り入れた多聴(70%)を中心として、会話力・聴解力・視覚と結びついたspeaking力と語彙力の養成。

英語A2： 多読(Extensive Reading)および精読(Intensive Reading)を併用して、科学技術に関連する記事などを正確に読み取り、ポイントを掴んで長文を抵抗なく読み取る能力の養成（特に理系）

英語B2： Listening/Writingを中心として、会話・プレゼン力など英語による議論や発表訓練を行ない、英語で自分の意見を抵抗なく話せる能力の養成

英語B2、C2の成績にTOEFL ITPスコアを30%の割合で加味

7 東北大学 全学教育 外国語委員会

全学教育での段階的能力育成

TOHOKU

実践的な英語教育

上級者用クラス（全学部対象、H28年度より英語A, B, Cにて実施）
留学生、帰国子女、英語圏への留学経験者等のすでに高度な英語能力を身につけている学生のために、実践的で実用的な英語運用能力を一層高める少人数授業を実施

プラクティカル・イングリッシュ スキルズ(Practical English Skills)
(2年次対象)
より高度な英語能力を身につけたいという強い意欲を持った学生のために、実践的で実用的な英語運用能力を養成します。外国人数員の担当による、英語の表出面(プレゼンテーション/スピーキング/作文)の能力を一層高めるための、少人数クラスでの集中的な訓練を行います。

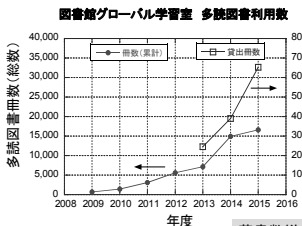
プラクティカル・イングリッシュ コース(Practical English Course)
(希望者対象、後期セメスタ開講(有料))
実践的で実用的な英語運用能力を養成するために、短期集中方式で土曜日に開講。英語によるプレゼンや会話力向上を目指した授業を実施。(外部委託)

8 東北大学 全学教育 外国語委員会

英語多読教育のための環境整備(グローバル学習室)

●段階的な英語多読教材の整備

- ・全学英語教育と連携した学習教材の整備(2009年度～)
- ・多読図書整備(16000冊超)→20000冊へ
- ・初修語の多読図書整備も開始(2015年度～)



中央図書館 グローバル学習室の多読書棚

多読図書を選ぶ学生

蔵書数増とともに利用冊数が大きく増加

Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

東北大学イングリッシュアカデミー (TEA)



外国人留学生との共修・交流



英語学習支援

プラクティカルイングリッシュコース



eラーニングシステム



SLA (Student Learning Adviser)の活用

先輩たちが君の学習を強力サポート！

English Conversation Café, I on I English

Student Learning Adviser





とちと学ぼう、とちと育とう、とちとだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

地下鉄「川内駅」すぐそば！

川内北キャンパス
マルチメディア教育研究棟1階
SLAラウンジ



東北大学
高度後援教育・学生支援機構
学習支援センター(SLAサポート)

TEA

Tohoku University English Academy

学部新入生オリエンテーションにて全員にチラシ配付

Tests of Language Proficiency ▶▶▶ 英語能力試験TOEFLの実施

TEA's English ▶▶▶ ネイティブ講師による課外英語学習講座 ◀無料

Advising ▶▶▶ 英語学習アドバイザーとの個別相談 ◀無料

全学教育における英語教育の役割



- 語学4要素のきめ細かい教育ステップ
- 統一した教育コンセプトと、outputの周知(教員、学生ともに)
- 教育課程を評価し、検討する体制の強化

Reading

Hearing

Speaking

Writing

全学教育での英語教育の役割

- Academic Skill としての英語能力の育成
大学での英語学習と英会話スクールとは違う
- 自学自習のステップ、ツールを示す。
継続的な英語学習につながる強い動機付け

(全国のTOP 1%の学生を教える気概)

3.「工学英語教育の総合戦略」

工学研究科（工学教育院）

特任准教授 須藤 祐子

平成28年3月8日
第10回東北大学全学教育FD「東北大学の英語教育」

工学英語教育の総合戦略

工学研究科・工学部
工学教育院 須藤祐子

1 東北大学 工学研究科・工学部

工学教育院

個々の教員の努力の域を超えた改革および学部内で共通性の高い教育の企画

基礎教育部門 (数学/物理/化学/英語)	・基礎科目の教育カリキュラムの構築 ・到達度評価法の開発・実施・・・学修レベル認定制度 ・専門科目の導入のための専門基礎的教育内容の開発	・兼務 (現役教員) 10名 ・非常勤講師 (週1日) 7名 ・専任教員 1名
学部・大学院連携教育部門	工学教育院特設協議会の企画・開催・・・高度教育教員ととの連携	・兼務 (現役教員) 18名 ・非常勤講師 (講義時) 10名
語学教育・国際交流部門	・教育・研究に関する国際交流推進 ・日本人留学生の増進と外国人留学生の対応 ・英語教育の充実 (TOEFL対策含む) ・東北インターナショナルスクールとの連携	・専任教員 3名 ・非常勤講師 (週1日) 2名
トップリーダー教育部門 (安全安心工学・物質理工学・スピントロニクス)	広く各分野で活躍できるトップリーダー養成の検討・実施 (リーディング大学院及び国際共同スピントロニクス大学院との連携)	・専任教員 4名
創造工学支援部門	創造工学センターと連携して「創造工学研修」の支援	・兼務 (現役教員) 4名 ・専任教員 4名
社会連携部門	小学生・中学生・高校生への科学技術に関する理解促進活動の企画・実施、リカレント教育の企画・実施 (子ども科学キャンパスは時限で)	・兼務 (現役教員) 1名 ・非常勤講師 (週1日) 6名 ・専任教員 2名
学生支援部門	学部全体と系ごとに経験豊かな人間性のある相談員を配置 ・学生相談学生の抱える問題への対応の検討 ・学生相談の在り方及び連絡調整 (全学学生支援体制と連携) ・ストレスと鬱・発達障害等の丁寧なケア ・系間の密な情報交換 ・学生対応に協賛する教員の相談	・兼務 (現役教員) 8名 ・非常勤講師 (会議時) 2名 ・専任教員 1名
教務企画部門		東北大学 工学研究科・工学部

2

英語教育に関する工学部の取り組み

- ◎工学部の英語教育方針の策定 (H26.12)
- ◎自主学習のためのブックレットの作成と配布 (H27～)
- ◎全学の英語教育から工学部の英語教育への接続の検討
・全学の英語授業内容の把握 (H27～)
- ◎英語集中講義 (1年生) の実施 (H26～)
- ◎TOEFL ITPの独自実施
1年生4月 (H26～)、3年生 (H15～)
- ◎学修レベル認定制度における評価 (H26～)

3 東北大学 工学研究科・工学部

工学部の英語教育コンセプト

平成28年12月10日
工学部教員会

学生に圧倒的に足りないもの
◎英語に触れる機会
◎論理的思考

↓

対策
◎WritingとPresentationの時間を各学生に必ず取る
◎ベースとして必要な論理的思考 (logical thinking) の訓練

【英語学習の構成】

Academic writing (logical, structural)
・ small questions
・ theoretical questions
・ opinion > why? > explain
・ reporting results

Reading ↑ Supporting ↑ Listening ↑ Speaking

【英語の講義時間の内訳】

・各スキルと関連部分の割合が論理的な訓練時間の割合

1年次は論理的スキルの訓練時間は半分以上
↓
年次が進むに連れて論理的スキルの訓練時間増加
↓
4年次は論理的スキルの訓練に全時間を使う

How to use logic
Writing training
Reading training
Listening training
Speaking training

1st yr 2nd yr 3rd yr 4th yr

4 東北大学 工学研究科・工学部

工学部で考える到達目標

平成28年12月10日
工学部教員会

入学 卒業 修了

Part 1 Part 2 Part 3

各学年終了時の到達目標

Writing Organization, Structure, Paragraph writing	150 words/week	250 words/week	500 words/week	5000 words 卒論 (英語)	20000 words 修論 (英語)
Reading		2000 words/week Essay, Newspaper	3000 words/week Scientific essay		
Speaking Presentation based on logical thinking	2 min. slow >> speed up >>	2 min.	3 min. 5 min. 10 min.		
Listening TOEFL ITP score (TOEIC score)		500 (700)	530 (786)	560 (872)	

5 東北大学 工学研究科・工学部

具体例

平成28年12月10日
工学部教員会

Presentation 80words

My Morning Routine

It is easy for me to get ready for the day. I get up at 8:30 a.m. I wash my face and brush my teeth. I put on my clothes. Then I put my books in my backpack. I leave my room at 8:45 a.m. I walk to Kariy Hall. My first class is from 9:00 to 9:50 a.m. After class, I am very hungry, so I go to the dining hall for a big breakfast. That is my morning routine.

113words

My Wedding Day

I have many wonderful memories of my wedding day. I would like to tell you about three of them. First of all, I remember the beautiful weather. The week before was cold and cloudy, but my wedding day was sunny and warm. I felt lucky. I also remember seeing smiles all around me that day. Almost 100 of my relatives and friends were there. They liked my future husband, so they were happy for me. Most of all, I remember walking down the aisle with him. I carried a bouquet of yellow flowers, and I held his arm tightly. My heart was very full. This unforgettable day began a new life for me.

Writing 122words

Freshmen

Flight Attendants

Flight attendants have three important characteristics. First of all, flight attendants are friendly. They enjoy greeting passengers and making them feel comfortable. Sometimes passengers are afraid of flying. A friendly flight attendant can talk to them and help them feel calm. For example, he or she can explain strange noises made by the aircraft. Second, flight attendants are self-confident. They give instructions to passengers, and they must be firm enough so that passengers obey them. This characteristic is especially important in emergencies. Third, flight attendants are physically strong. They push heavy carts of food and drinks up and down the aisle. They also have to open and close the heavy doors of airplanes. In short, flight attendants are friendly, self-confident, and strong.

236words

Sophomore

Why I Don't Have a Credit Card

There are three reasons I don't have a credit card. The first reason is that using a piece of plastic instead of cash makes it too easy for me to buy things. I can't afford. For instance, last week I saw a \$75.00 pair of jeans online in my favorite store. Of course, I don't need jeans, but I can't resist them. With a credit card, I would have seen those jeans and be worrying about how to pay for them. The second reason I don't have a credit card is that I would end up in debt. I like the Thriftstore. I saw a pair of shoes last year, and she showed me \$4.00. I thought, "I can't resist them." I don't really need such shoes, but I bought them. I only realized that I had a problem when I saw the shoes. The third reason I don't have a credit card is the difficulty in understanding the fine print in credit card contracts. I don't read the fine print, so I can be surprised. For example, some credit card companies will raise my interest rate if I make a payment even one day late. To put it all, credit cards may be a convenience for some people, but for me, they are a piece of plastic to be avoided.

6 東北大学 工学研究科・工学部

具体例

平成26年12月10日
工学部教授会

Junior

The Washington Post

Think you drink a lot? This chart will tell you.

By Christopher Ingraham September 25 at 1:57 PM 25 10 Twitter 10 Instagram

Time for a stiff drink

50 percent of American adults (171 million) drink at least one alcoholic beverage a day. That's up from 40 percent in 2007. And it's not just men who are drinking more. Women are drinking more, too. In fact, the number of women who drink at least one alcoholic beverage a day has risen from 35 percent in 2007 to 45 percent today.

On the other hand, the top 10 percent of American adults, 24 million, drink at least one alcoholic beverage a day. That's up from 15 percent in 2007. And it's not just men who are drinking more. Women are drinking more, too. In fact, the number of women who drink at least one alcoholic beverage a day has risen from 10 percent in 2007 to 20 percent today.

Do you drink a glass of wine with dinner every night? That puts you in the top 10 percent of American adults in terms of per capita alcohol consumption. If you drink two glasses, that would put you in the top 20 percent.

But in order to break into the top 10 percent of American drinkers, you would need to drink more than two bottles of wine with every dinner. And you'd still be below-average among those top 10 percenters.

The top 10 percent of American drinkers - 24 million adults over age 18 - consume, on average, 74 alcoholic drinks per week. That works out to a little more than four and a half 750 ml bottles of Jack Daniels, 48 bottles of wine, or three and a half cases of beer. In one week.

Oh, if you prefer, to drink per day.

These figures come from Philip J. Cook's "Paying the Tab," an economically-minded examination of the costs and benefits of alcohol control in the U.S. Specifically, they're calculations made using the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions (NESARC) data.

I double-checked these figures with Cook, just to make sure I wasn't reading them wrong. "I agree that it's hard to imagine consuming so much alcohol a day," he told me. But, "there are a remarkable number of people who drink a couple of six packs a day, or a pint of whiskey."

7 東北大学 工学部 工学部

工学部の英語教育グランドデザイン

平成26年12月10日
工学部教授会

リーディング
大学院

TGL
プログラム

海外留学

④トップ層の能力引き上げ (国際対応力)

③アカデミック・ライティング (logical, structural) の能力向上

②文法力の強化

①基礎力として4つのスキルを強化

TOEFL ITP 試験

レベル認定制度
ジャンル5

レベル認定制度
ジャンル4

選抜者

全体の底上げ

対応策

①③全学教育科目の英語教育改革

②工学部専門科目により対応→工学英語 I (集中講義とTOEFL ITP試験)

④成績優秀者 (上位10%) を選抜して集中講義および合宿

8 東北大学 工学部 工学部

英語自主学習ブックレットの作成と配布

・工学部生に対して、英語の必要性を示す

・学生が自分で勉強する際にいつでも立ち返ることのできる手引きとする

⇒学部新入生、修士新入生に配布 (新入生オリエンテーションで説明も)

1. 英英辞書の使い方

2. 工学部におけるレポート・文章の書き方

3. 大学における英語学習法

- Extensive Reading

- Academic Writing and Reading

4. TOEIC / TOEFL ITP / IELTS

5. 大学内における英語学習支援

- eラーニング

- 自主学習スペース

6. 海外研修や留学のことを調べるには

7. 大学内で覚えておくべき表現 (phrases)

8. お薦めの教材

全学英語科目の
工学部クラス担当
教員にも配布

ENGLISH
LEARNING
BOOKLET

2015 Spring

9 東北大学 工学部 工学部

英語教育に関する工学部の取り組み

◎工学部の英語教育方針の策定 (H26.12)

◎自主学習のためのブックレットの作成と配布 (H27～)

◎全学の英語教育から工学部の英語教育への接続の検討

・全学の英語授業内容の把握 (H27～)

◎英語集中講義 (1年生) の実施 (H26～)

◎TOEFL ITPの独自実施

1年生4月 (H26～)、3年生 (H15～)

◎学修レベル認定制度における評価 (H26～)

10 東北大学 工学部 工学部

全学の英語授業内容の把握

3年次以降の英学英語教育の内容を検討するために、
1, 2年次でどのような授業を受けているか把握する。

◎全学の英語授業 (各科目22クラス) に関する情報収集

・1, 2年生全員に記述式アンケート

・1クラス1～3名の学生にヒアリング (1対1で30分程度)

H27前期 1年生: 英語A1, B1 33名 2年生: 英語C1 33名
H27後期 1年生: 英語A2, B2 36名 2年生: 英語C2 38名

↓

どのように接続していくのが効果的か?

◎現在の3年次以降の英語教育

・3年次または4年次

各学科の工学英語 II (選択必修or選択)

各学科の研修やセミナー (必修)

(英語の学術論文を読んで内容を日本語で発表)

・英語で卒論発表の学科もあり

11 東北大学 工学部 工学部

英語集中講義 (1年生) の実施

➢ H26 課外授業として導入

9月末 1日5時間×5日間

文法のみ

↓ 12月のTOEFL ITP結果より有効性を確認

➢ H27 工学英語 I として単位化

9月末 1日6時間×5日間

文法、リーディング、ライティング

* 7月中に事前オリエンテーション (20分程度)

1日2回 (昼休み、放課後) × 3日 = 全6回

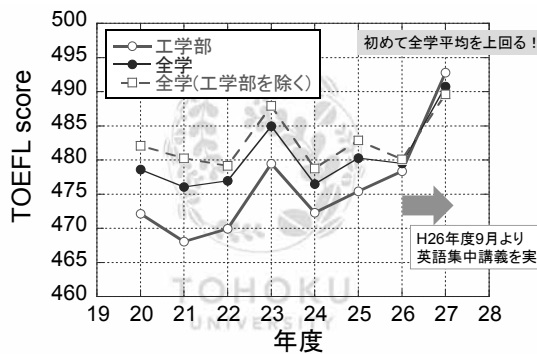
英語の基礎を固める必要性

学術論文の例を5編程度回覧

(3年生以降に課せられる英語の具体例)

12 東北大学 工学部 工学部

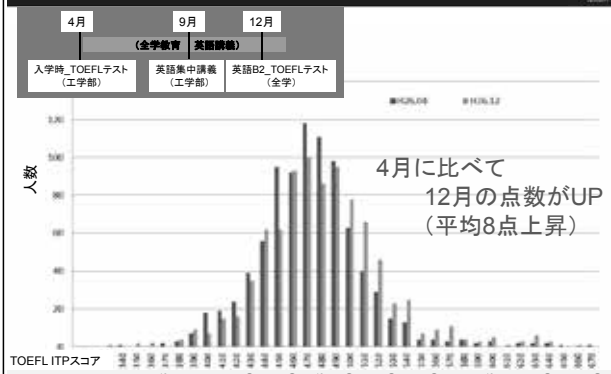
12月実施TOEFL ITPの平均スコア(年度変化)



13

東北大学 工学研究科・工学部

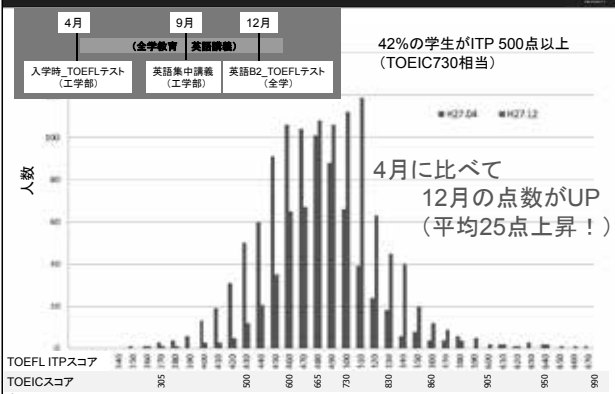
TOEFL ITPスコア分布 (H26入学生:4月と12月)



14

東北大学 工学研究科・工学部

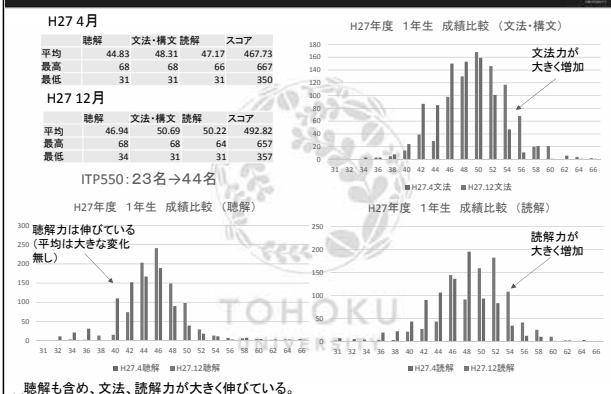
TOEFL ITPスコア分布 (H27入学生:4月と12月)



15

東北大学 工学研究科・工学部

TOEFL ITPスコア分布 (H27入学生:4月と12月)



16

東北大学 工学研究科・工学部

英語教育に関する工学部の取り組み

- ◎工学部の英語教育方針の策定 (H26.12)
- ◎自主学習のためのブックレットの作成と配布 (H27～)
- ◎全学の英語教育から工学部の英語教育への接続の検討・全学の英語授業内容の把握 (H27～)
- ◎英語集中講義(1年生)の実施 (H26～)
- ◎TOEFL ITPの独自実施
1年生4月 (H26～)、3年生 (H15～)
- ◎学修レベル認定制度における評価 (H26～)

17

東北大学 工学研究科・工学部

学びの転換の促進:学修レベル認定制度

従来:単位制による進級・卒業認定
本制度:自主的に学び総合力を身につける

学修レベル認定制度

1. 基礎学力(統一テスト)
2. 専門学力
3. 課題解決力/論理展開力
4. 語学(英語)力
5. 価値創造力

各ジャンルの
学生個人の
到達度を
評価

(参考)GPA:取得単位成績の平均値

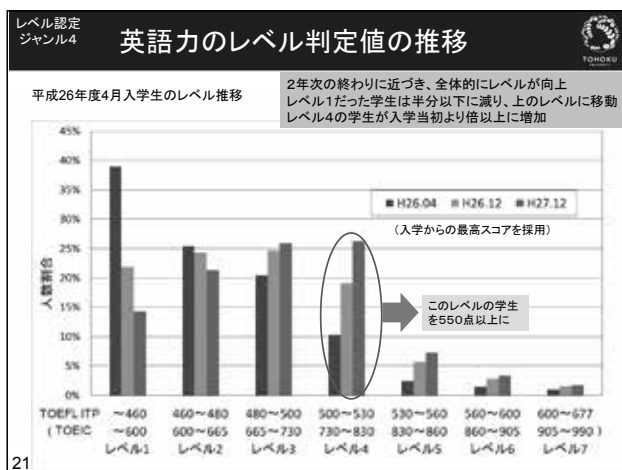
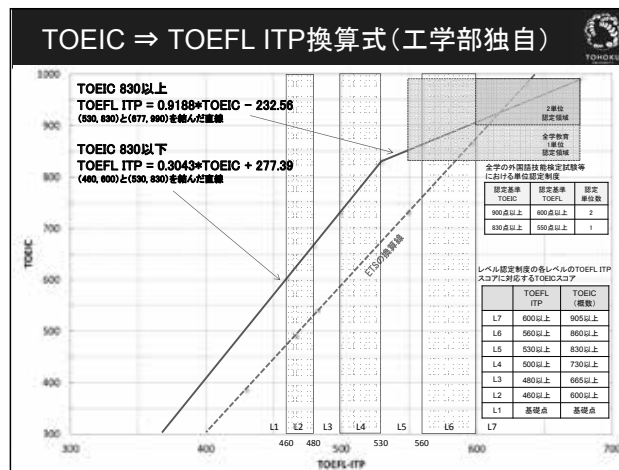
18

東北大学 工学研究科・工学部

各ジャンルのレベル認定基準					
	ジャンル1. 基礎学力	ジャンル2. 専門学力	ジャンル3. 課題解決／ 論理展開力	ジャンル4. 語学(英語)力	ジャンル5. 価値創造力
レベル7	数学・理科学統合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント 60以上	TOEFL ITPスコア 600以上	ポイント 60以上
レベル6	数学・理科学統合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント 50以上	TOEFL ITPスコア 560以上	ポイント 50以上
レベル5	数学・理科学統合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント 40以上	TOEFL ITPスコア 530以上	ポイント 40以上
レベル4	数学・理科学統合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント 30以上	TOEFL ITPスコア 500以上	ポイント 30以上
レベル3	数学・理科学統合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント 20以上	TOEFL ITPスコア 480以上	ポイント 20以上
レベル2	数学・理科学統合課題 (統一テスト) 成績 全学教育科目評価で判断	各系ごとの専門教育科目 (大学院科目を含む) 成績 およびレベル判定試験等の 成績	ポイント 10以上	TOEFL ITPスコア 460以上	ポイント 10以上
レベル1	基礎点	基礎点	基礎点	基礎点	基礎点

19

東北大学 工学研究科・工学部



21

レベル認定
ジャンル5

海外体験や国際交流の推奨

ジャンル5
価値創造力

◎幅広い教養、専門外の知識、多様性受容
◎価値創造へと繋がる基礎の養成

- ・狭い専門領域の中だけでなく、分野横断、地域横断、国際的活動など、広く自分の能力を活かしながら新しい活動の場を拡げていく力や活動を評価する
- ・ジャンル1～4で評価できない能力や活動を評価
- ・既存の大学カリキュラムでは評価できなかった能力の向上を奨励
- ・イノベーション力、マネジメント力、グローバル力などを評価

◎ジャンル5の指定科目および各種対象活動を2つに分類

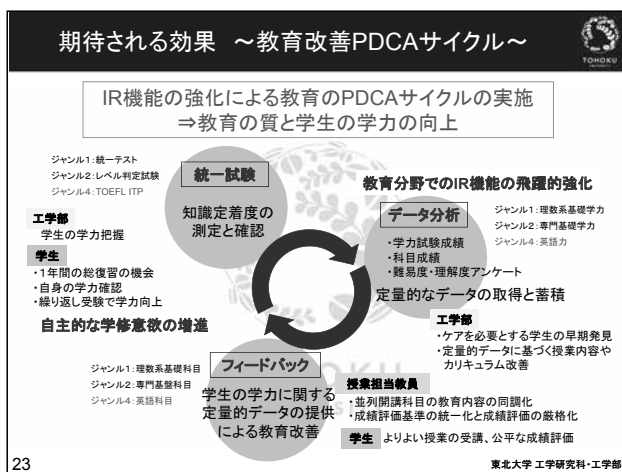
カテゴリー1: 教育研究に付随する活動
カテゴリー2: 社会性を養う活動

海外研修や国際交流の科目や活動を評価対象に

- ・海外研修(SAP)
- ・海外フィールドワーク(海外体験プログラム)
- ・国際工学研修
- ・単位認定外の国際交流プログラム

22

東北大学 工学研究科・工学部



23

東北大学 工学研究科・工学部

レベル認定制度の期待される効果

(1) 学生の視点

- 1年間の学修の総復習の機会(繰り返し受験が可能)
- 自分の学修到達度や活動の成果が「見える化」される
- レベル値の向上により能力の獲得を実感
- よりよい授業の受講と公平な成績評価で満足度の向上
- 研究室配属や就職活動などでインセンティブ

自主的な学修意欲の増進
多面的な視点での自己評価・アピール

(2) 教育組織の視点

- 学力(定着度合)の定量的評価
- 入試から卒業・修了までの教育システム評価
- 定量的データに基づく授業内容・カリキュラム改善指針
- 学修支援を必要とする学生の早期発見と対応

教育分野でのIR機能の飛躍的強化

24

東北大学 工学研究科・工学部

4. 「医学科の専門英語教育」

医学系研究科（医学教育推進センター）
准教授 石井 誠一



第10回東北大学全学教育FD
“東北大学の英語教育”



医学科の専門英語教育

2016年3月8日
医学系研究科
医学教育推進センター 石井 誠一

1

医学科の教育目標(2005年度制定)

12. 国際人としての能力

- 1) 地球規模の研究、診療に従事するため、国際的視野を身に付ける。
- 2) 国際人としてのコミュニケーション能力を身に付ける。



- 1年次に、医学英語と英語学習法を紹介
- 3年次の『医学専門英語』で、能力強化
- 研究・臨床の海外留学を奨励
- 留学者は帰国後に英語でPresentation & Discussionを行う
- 課外の英語コミュニケーション能力開発コースを開催

2

『医学専門英語』の歴史

- 2010年秋、石井が医学英語の責任者になる。
- WGのメンバー募集 → 3人手を挙げ、総勢4名。

- 教授、学生を対象に医学英語のNeeds Assessment実施

- 結果を元に、WGが教育目標案とカリキュラム案を起草

- 教務委員会で審議・修正後に、教授会で承認

- 2011年4月、新カリキュラム開始予定だったが、震災で大幅カット

- 2012年4月より、本格実施となる。

3

『医学専門英語』の歴史

2012年～現在 3年次 180分×16回、4次 180分×6回 (計66時間)

- 教育目標
1. 国際舞台で発表、討論、診療等を行うために必要な英語コミュニケーションの基本能力を習得する。
 2. 英語コミュニケーション能力の必要性を認識し、英語能力向上のための方法論を習得する。

- 授業内容
1. 12人クラスで英会話, native speaker 6名 計15回
 2. E-learning, 計10回, 毎回課題を設定しレポート
 3. 特別講演 2～3回

- 評価とFB
1. グループ英会話のperformance
 2. ELレポート
 3. 会話テスト
 4. 筆記テスト

4

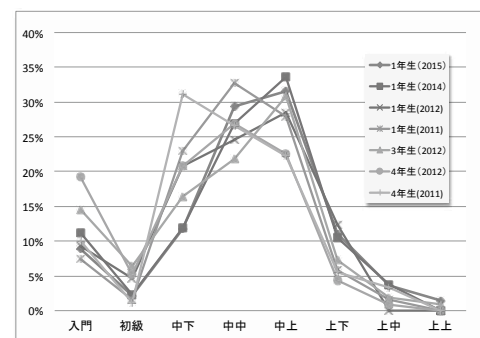
現在の医学科6年間の英語教育

英語能力開発と国際交流の推進

- 1年: 英語語彙力・リスニング力の測定とFeedback
 2年: 3年生の海外研究留学発表会(英語)聴講
 3年: 医学専門英語(16週) ・グループ英会話
 ・E-learning(医学基本語彙・診療英会話)
 ・海外研究者の特別講演
 ・能力評価とFeedback
 海外研究留学(30名前後) → 帰国後、英語による成果発表
 4年: 医学専門英語(6週) ・海外研究者の特別講演
 ・E-learning(国際学会プレゼン・スキル)
 6年生の海外留学報告会聴講
 6年: 海外臨床留学(約30名) → 帰国後、英語による成果発表
 課外: English Café, 英語コミュニケーション能力開発コース
 (全学年の希望者20名前後, 4～7月の10週)

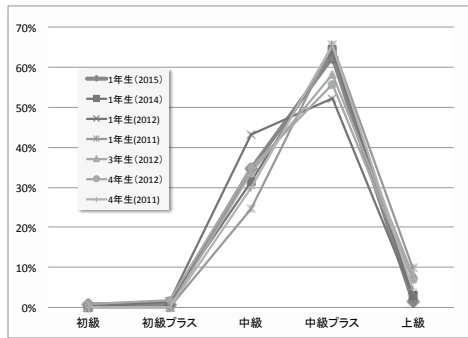
5

Diagnostic test of English Proficiency, Y1 Vocabularies



6

Diagnostic test of English Proficiency, Y1 Listening



7

Medical English, Y3 2015 Calendar

週 日	曜日・時間	1					2					3					4					5					6																																																																										
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6																																																																					
1	3/30 ~ 4/3	春休み															サリン 病理Ⅱ 3H																																																																																				
2	4/6 ~ 4/10	公衆衛生 3H																																																																																																			
3	4/13 ~ 4/17	病理Ⅱ 3H															医化学 実習 9H															医化学 実習 9H																																																																					
4	4/20 ~ 4/24	医学概論 3H															病理Ⅱ 15H															9H															医化学 実習 9H																																																						
5	4/27 ~ 5/1	病理Ⅱ 3H															公衆衛生 3H															微生物学 3H															公衆衛生 24H															微生物学 18H					薬理学 18H																																		
6	5/4 ~ 5/8	みどりの日															こどもの日															春休み 3H																																																																					
7	5/11 ~ 5/15	医化学 実習 9H															健康診断 実習 3H															医化学 実習 9H															医化学 実習 9H															法医学 9H															医学英語					生体材料 3H																			
8	5/18 ~ 5/22	医化学 実習 9H															健康診断 実習 3H															医化学 実習 9H															健康診断 実習 3H															医化学 実習 9H															法医学 9H																								
9	5/25 ~ 5/29	医化学 実習 9H															健康診断 実習 3H															医化学 実習 9H															健康診断 実習 3H															医化学 実習 9H															法医学 9H																								
10	6/1 ~ 6/5	病理Ⅱ 3H															医化学 実習 9H															微生物学 15H															公衆衛生 24H															薬理学 21H															法医学 15H																								
11	6/8 ~ 6/12	病理Ⅱ 3H															医化学 実習 9H															微生物学 15H															公衆衛生 24H															薬理学 21H															法医学 15H																								
12	6/15 ~ 6/19	病理Ⅱ 3H															医化学 実習 9H															微生物学 15H															公衆衛生 24H															薬理学 21H															法医学 15H																								
13	6/22 ~ 6/26	病理Ⅱ 3H															医化学 実習 9H															微生物学 15H															公衆衛生 24H															薬理学 21H															法医学 15H																								
14	6/29 ~ 7/3	病理Ⅱ 3H															医化学 実習 9H															微生物学 15H															公衆衛生 24H															薬理学 21H															法医学 15H																								
15	7/6 ~ 7/10	病理Ⅱ 3H															医化学 実習 9H															微生物学 15H															公衆衛生 24H															薬理学 21H															法医学 15H																								
16	7/13 ~ 7/17	病理Ⅱ 3H															医化学 実習 9H															微生物学 15H															公衆衛生 24H															薬理学 21H															法医学 15H																								
17	7/20 ~ 7/24	病理Ⅱ 3H															医化学 実習 9H															微生物学 15H															公衆衛生 24H															薬理学 21H															法医学 15H																								
18	7/27 ~ 7/31	病理Ⅱ 3H															医化学 実習 9H															微生物学 15H															公衆衛生 24H															薬理学 21H															法医学 15H																								
19	8/3 ~ 8/7	試験成績確認															夏季休業															衛生学 3H															公衆衛生 3H															試験成績確認																																							
20	8/10 ~ 8/14	試験成績確認															夏季休業															衛生学 3H															公衆衛生 3H															試験成績確認																																							

8

Medical English, Y3 Goals

- To enhance communication skills in English so that students will be able to work effectively in such scenes as presentations, discussions and meeting with patients in the international arena.
- To learn a variety of methods to develop students' proficiency in English.
- 国際舞台で発表、討論、診療等を行うために必要な英語コミュニケーションの基本能力を習得する。
- 英語コミュニケーション能力の必要性を認識し、英語能力向上のための方法論を習得する。

9

Medical English, Y3 Strategies

- Group Conversation** with native English teachers. (70 min x 15)
- E-learning** specific for Medical English. (70 min x 10)
- Special Lectures** (70 min x 3)
- Role-playing** (70 min x 2)
- Pre- and Post- Exams: Written tests & OSCE** (70 min x 3)

10

Medical English, Y3 Student Assessment

- Performance in Group Sessions (40%)**
 - 80% attendance (12 times of class attendance) is essential.
 - students whose attendance is less than 80% will fail in this course.
 - Teachers of conversation class will assess each student according to her/his performance in class.
- Reports of E-Learning Course (40%)**
 - Students are required to submit a report in each of the 11 EL classes.
 - 100% submission of reports is essential to get the credit of Med. English.
- Written test (10%)**
 - Only post-exam will be counted. Pre-exam is not included in grading.
- Conversation test (10%)**
 - A conversation test will be held on the final week of Medical English.

11

Medical English, Y3 Group conversation

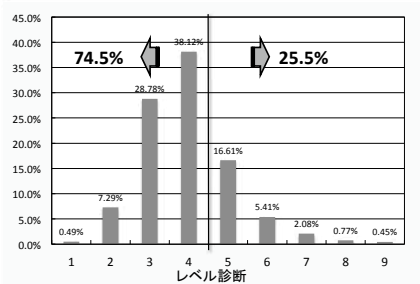


- Native speaker講師6名
- 3年生11~12人×12グループ
- 70分×5週×3コース
- 第16週に会話テスト



12

Medical English, Y3 Telephone Standard Speaking Test (TSST) 全受験者の結果*

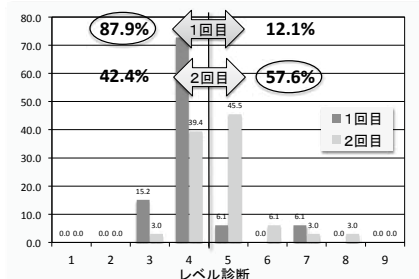


*受験者数10,000人以上、主に企業研修(アルク教育社提供)

13

Medical English, Y3 Telephone Standard Speaking Test (TSST)

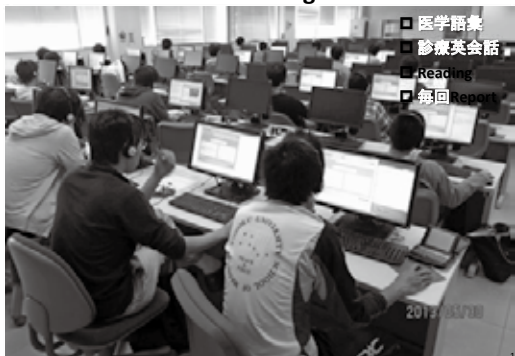
東北大学医学部受験者の結果(2012年度)*



*医学専門英語15週間の前後に希望者33名が受験

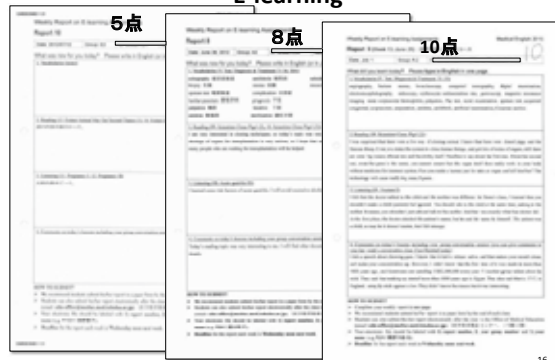
14

Medical English, Y3 E-learning



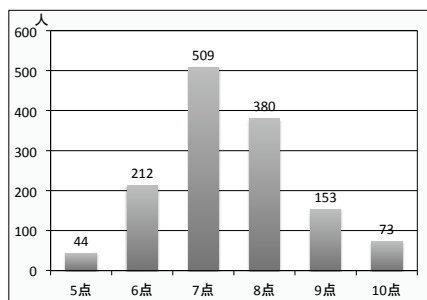
15

Medical English, Y3 E-learning



16

Medical English, Y3 E-learning: 得点分布(2015年度)



レポート総数 1,371, 平均得点 7.44

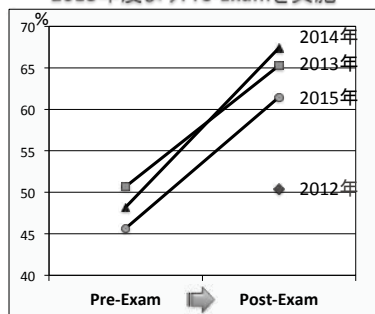
17

Medical English, Y3 Written tests(医学語彙、表現力)抜粋

Japanese	English	Japanese	English
私はA医師です、初めてBさん(男性)。		咳	
今日はどうなさいましたか。		胸焼け	
1週間前から、喉と歯が痛いです。		下痢	
それはお困りですね。		浮腫	
もう少し詳しくお話していただけますか。		尿	
どんな痛みですか。		めまい	
ずきずきする痛みです。		胸痛	
痛むところを指して下さい。		神経痛	
食欲はいかがですか。		肺炎	
今までに重い病気にかかった事がありますか。		採血	
アレルギーはありますか。		体温	
最近、海外旅行をしましたか。		患者さん	
ご家族に同じような症状の人はいますか。		救急外来	
肺の音(呼吸音)を聞かせてください。			
鎮痛薬(痛み止め)を処方しますね。			

18

Medical English, Y3 Written tests (医学語彙、表現力) 得点 2013年度よりPre-Examを実施



19

Medical English, Y3 Conversation test, 2014

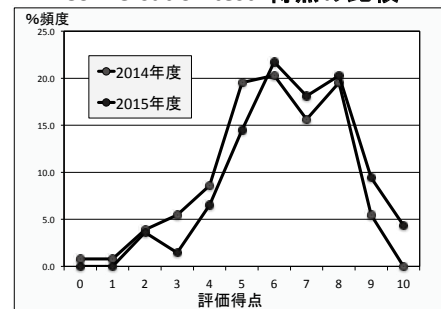


Medical English, Y3 Conversation test, 2015



21

Medical English, Y3 Conversation test: 得点の比較



2014年度: 受験者128名, 平均 5.9点
2015年度: 受験者138名, 平均 6.6点

22

Medical English, Y3 Special lecture



23

Medical English, Y3 Awards

(^_^)

Students who get high grades in Medical English will have a higher chance to win various scholarships for studying abroad during the Research Training period.

(*_*)

Students with low marks in ME might lose the chance to win the aid even if she/he has earned good grades in other subjects.

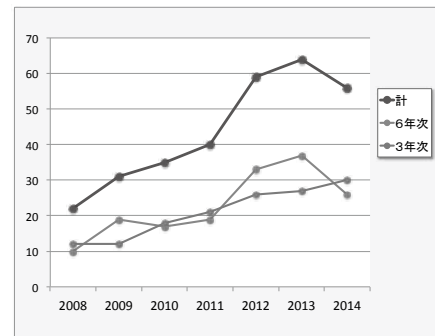
24

Suggested Reading, Y1,Y2,Y3



25

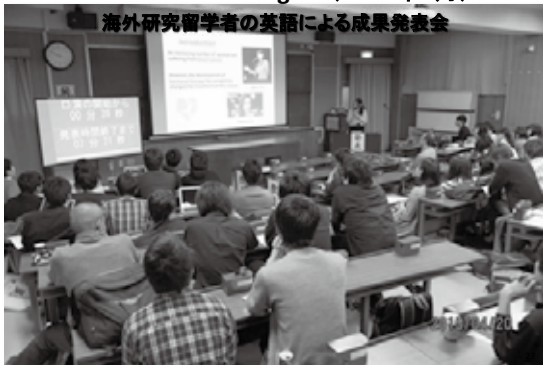
Number of Students Studied Abroad



26

Research Abroad, Y4 Presentation in English (2015年4月)

海外研究留学者の英語による成果発表会



Research Abroad, Y4 Presentation in English (2014年4月)

1年下の学年と新入生全員が聴講



English Café 2013, Y1 to Y6 Special Guest



□ Special Guest
WHO職員によるコンゴでの
ポリオ撲滅活動の紹介



29

English Café 2015, Y1 to Y6 Debate



□ Topics
1. Consumption tax to 10%
2. No smartphones for kids
3. Smoking ban
4. Amendment of the constitution
etc.

□ Affirmative 1
□ Affirmative 2
□ Negative 1
□ Negative 2
□ Judges





東北大学高度教養教育開発推進事業 報告会



高度国際コミュニケーション能力開発コース： 異文化を理解し世界への発信力を備える医療人の育成

2016年3月2日
医学系研究科
医学教育推進センター 石井 誠一

31

目的

高度国際コミュニケーション能力開発コースを開設

- ◆異文化を理解（文化、習慣、宗教など）
- ◆国際人としての素養を涵養（歴史、国際情勢など）
- ◆世界に発信する英語能力を開発
(presentation, *discussion*, *networking*, debate, etc.)



国際人としての素養ある医療人の育成

32

コースの概要

期 間： 2015年10月末～2016年1月末
日 時： 毎週木曜・金曜，16:30～17:45(75分)
全12週間 木曜12回，金曜12回(計24回)
参加者： 医学科 1年～5年生 27名
歯学部 3年～4年生 2名
Instructor: 講師 1名(米国)
Facilitator: 大学院留学生 5名(ロシア、ドイツ、ベトナム)
医学科助教 1名(オーストラリア)
運 営： 教員 1名(石井)，事務 1名

33

参加者とスケジュール: 木曜

				Week	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	attendance
	Participants	MS year	English name	Date	Oct 29	Nov 12	Nov 19	Nov 26	Dec 3	Dec 10	Dec 17	Dec 24	Jan 7	Jan 14	Jan 21	Jan 28	
1	Seichi Ishii	MS4	Riza	—	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	10
2		MS3	Stacia	—	✓	sick	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	10
3		MS3	Meledy	—	✓	sick	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	10
4		MS1	Angie	—	✓	busy	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	7
5		MS1	Jackson	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	12
6		MS1	Richard	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	9
7		MS1	Jo	—	✓	✓	sick	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	11
8		MS1	Lucy	—	✓	✓	✓	chore	chore	chore	✓	✓	✓	✓	✓	✓	6
9		MS1	Chloe	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	7
10		MS1	Roy	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	9
11		MS1	Gary	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	10
12		MS1	Claire	—	✓	✓	✓	job	job	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	4
13		MS1	Monika	—	—	✓	✓	—	Tokyo	sick	✓	✓	✓	✓	✓	✓	7
14		MS1	Patrick	—	✓	✓	✓	chore	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	3
15		MS1	Kate	—	✓	✓	✓	✓	chore	chore	chore	✓	✓	✓	✓	✓	6
16		DS4	Sally	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
		MC1		—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
		MC1		—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
		MC1		—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	Seichi Ishii		Robert	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	34

参加者とスケジュール: 金曜

		MS year	English name	Week	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	attendance
	Participants		Date	Oct 29	Nov 13	Nov 20	Nov 27	Dec 4	Dec 11	Dec 18	Dec 25	Jan 1	Jan 8	Jan 15	Jan 22	Jan 29	
1	MS5	Paul	—	✓	✓	away	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	6
2	MS4	Ruby	—	✓	✓	✓	chore	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	6
3	MS4	Jack	—	✓	✓	✓	chore	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	2
4	MS3	Matt	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	10
5	MS3	Sapp	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	11
6	MS3	Michael	—	✓	✓	✓	—	Boston	Boston	Boston	Boston	Boston	Boston	Boston	Boston	Boston	3
7	MS3	Tom	—	✓	✓	✓	✓	job	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	9
8	MS3	Lily	—	✓	✓	✓	✓	sick	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	6
9	MS2	Mario	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	9
10	MS1	Luna	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	9
11	MS1	Reo	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	10
12	MS1	Nick	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	4
13	DS2	Sophie	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	10
	MC1		—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	MC1		—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	MC1		—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	Seichi Ishii	Robert	—	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	

35

実施内容

Session 1: 米国人講師によるグループ英会話

- その場で、2～4人のグループを作る
- 講師が2～3のトピックを提示して、グループで1つ選ぶ
- 15分討論
- 15分後に各グループの1名が討論内容を1分で紹介
- グループ構成を変えて、別なテーマで15分討論

Session 2: 留学生を交えたグループ英会話

- その場で、2～4人のグループを作る
- 各グループに留学生が加わり、トピックを提示
- 10分討論
- グループはそのまま、留学生がローテートして10分討論
- 3ラウンドまで繰り返す
- この間、講師は適宜、グループに加わる

36

Session 1



□ Topics

1. Environmental Pollution
2. Infectious diseases
3. Internet
4. Automated cruising cars etc.



Session 2



□ Topics

1. Karaoke
2. Scenic sites
3. Christmas without Christianity
4. Introverted/Extroverted etc.

□ Topics

1. Work-life balance
2. Influential person
3. Part-time jobs
4. Retirement age etc.

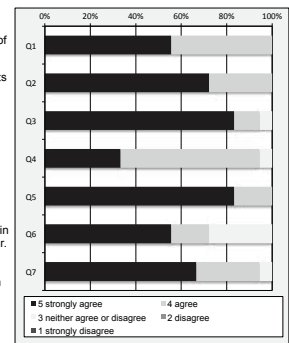


修了証



参加学生によるプログラム評価

- Q1: The 1st sessions with Kurt were lively and of benefit.
- Q2: The 2nd sessions with international students were lively and of benefit.
- Q3: I learned cultural differences from the sessions with international students.
- Q4: My English conversation abilities have improved by attending this course.
- Q5: Overall, I enjoyed this course a lot.
- Q6: I would like to participate in this course again if it is going to be held in the next academic year.
- Q7: I am interested in a new student club for English conversation if it is going to be set up in the Seiryō medical area.



回答数18

40

Thank you for your attention!

5. 「Implementing a Four Skills English Discussion Class : Reasons, Challenges, and Rewards」

高度教養教育・学生支援機構（教育内容開発部門）
講師 トッド・エンスレン

Implementing a Four Skills English Discussion Class using the Preparation, Discussion, Reaction (PDR) Method

Todd Enslin
高度教養教育・学生支援機構
enslen@m.tohoku.ac.jp

Why do you teach the way that you do?

1. It is the way that I was taught.
2. Circumstances – large classes
3. Inertia – It is the way that I have always taught.

Outline

- Prior to using the PDR Method
- Overview of the PDR Method
- Reasons for changing to the PDR Method
- Challenges
- Rewards

Textbook-based class

- Four Skills
- Content presented in class
- Topic-based chapters, but grammar-focused
- Activities independent of one another
- Targeted toward the average student
- Homework to review class activities



Overview of PDR Method

- Designed by a colleague in IEHE
 - Adopted/Revised by a small group of teachers
1. **Preparation** – Reading an article or watching a video about a specific topic before class and completing a worksheet
 2. **Discussion** – Discussing the topic in small groups (3 – 4 students) 20 minutes x 3
 3. **Reaction** – Writing a reaction about the topic based on the input and discussions 15 minutes

Preparation

Discussion Format



Reaction Form

Input



Discussions



“Flipped Classroom” (Bergmann and Samms, 2012) or “The Inverted Classroom” (Lage, Platt, & Tregila, 2000)

- Instructor records lectures/prepares readings to be viewed/read before class.
- Students prepare for class by watching the lecture.
- Classroom time is devoted to applying learning and to higher-order thinking tasks.
- Students receive support from instructor and peers.

Reasons for changing to PDR

- My view of how students “notice” changed
- Brown’s Principles & communicative competence
- EFL Environment at Tohoku University
- Leads to autonomous learning
- More interesting and engaging
- Involves critical thinking

“Noticing”

- For language to be acquired, it must be “noticed” or attended to for it to move from short-term memory to long-term memory. (Schmidt, 1983).
- Teachers often believe that because we have taught it, the students have learned it.

Teaching ≠ Learning

Fostering Noticing

(Brown and Larson-Hall, 2013)

1. Draw attention to target form by highlighting it.
2. Explain how L1 differs from L2. (beginners)
3. Give learners time to plan what they will say.
4. Repeat a task multiple times.
5. Have students produce language through various types of output.

Communicative Competence

(Brown, 2007)

The ability to understand and use language effectively requires four types of knowledge:

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. Grammatical | 3. Sociolinguistic |
| 2. Strategic | 4. Discourse |



Levelt's (1989) Psycholinguistic Model of Communication

1. Conceptualization – Planning Message
2. Utterance formulation – Putting words and phrases together
3. Articulation – Speaking
4. Self-monitoring – “Is this correct?”

**All four are required in a communicative activity. However, oral practice only involves the last two.

Difference Between Communication and Practice (Blyth, 2015)

Guided Practice	Communicative Task
Teacher-controlled	Learner-controlled
Pedagogical	Real life, authentic
Analytic (1 at a time)	Synthetic/holistic
Closed (1 right answer)	Open (no single answer)
Focus on accuracy	Focus on fluency

Challenges

- Student perceptions
- Teacher perceptions
- Lack of communication experience
- Evaluation
- Determining appropriate content

Implementing Communicative Activities (Brandl, 2009)

- Make the goal clear from the beginning.
- Involve all participants equally.
- Make sure students are adequately prepared.
- Mix groups as much as possible.
- Use relevant and interesting activities.
- Circulate.
- Teach group interaction skills.
- Hold group accountable for finishing tasks on time.

Benefits of Group Work Brandl (2009)

- More opportunities for self-expression
- Use a wider range of language functions
- Use a wider range of syntactic structures
- Increased use of clarifications and confirmation checks
- More self-correction is happening
- Collaboration is more motivating than competition

Other Benefits of PDR

- Meets the needs of students at a variety of levels better.
- Learners interact with and become friends with classmates.
- Learners are able to develop their writing ability.
- Learners think critically about topics.
- Gives students more input into their own learning.
- Student can become autonomous.

Student Comments

- “Through this class I improved my English skills. I can talk a long time in English. Each topic was difficult and I tried to think in English and write English. Talking with friend, I discovered other views. Discussion is the most efficient way to make my thoughts deep.”
- “This class is the most interesting class I have ever had. I think to improve English skills I have to do input and output. Almost classes need only input, but this is not. I can improve and realize my English skill.”

References

- Bergmann, A. and Simms, A. (2012). *Flip Your Classroom: Reach Every Student in Every Class Every Day*. International Society for Technology in Education
- Blyth, C. (2015). *Defining Communication*. Available at: <https://coerll.utexas.edu/methods/modules/speaking/01/>
- Brandl, K. (2009). Chapter 8 *Developing oral communication skills*. In *Communicative Language Teaching in Action*. Upper Saddle River, NJ: Pearson/Prentice Hall.
- Brown, D.H. (2007). *Teaching by Principles: An Interactive Approach to Language Pedagogy*. White Plains, NY: Pearson Education.

References

- Brown, S. and Larson-Hall, J. (2012). (eds.) *Second Language Acquisition Myths: Applying Second Language Research to Classroom Teaching*. Ann Arbor, MI: University of Michigan Press.
- Lage, M., Platt, G. and Treglia, M. (2000). Inverting the classroom: A gateway to creating an inclusive learning environment. *The Journal of Economic Education* 31: 30–43.
- Levelt, W. (1989) *Speaking: From Interaction to Articulation*. Boston: MIT Press
- Schmidt, R. (1983). Interaction, acculturation and the acquisition of communicative competence. In N. Wolfson & E. Judd, (Eds.), *Sociolinguistics and language acquisition* (pp. 137–174). Rowley, MA: Newbury House.

6. 第10回東北大学全学教育FDアンケート結果

第10回東北大学全学教育FDアンケート

今後の全学教育FDを企画するうえで参考とさせていただきたく、アンケートにご協力
よろしくお願い致します。

回 答 者： 東北大学教員・非常勤講師・事務職員・その他 （いずれかを○で囲んでください）

*教員の方は、全学教育で担当されている科目名を記入してください。

科目名： _____

1 全学教育FDの趣旨を理解できましたか。

(1) できた (2) できなかった (3) どちらともいえない

※お答えになった理由や感想をお書き下さい。

--

2 東北大学の英語教育について、イメージやヒントは得られましたか。

(1) 得られた (2) 得られなかった (3) どちらともいえない

※お答えになった理由や感想をお書き下さい。

--

3 今回の全学教育FDの内容・運営等についてはいかがでしたか。

(1) よかった (2) よくなかった (3) どちらともいえない

※お答えになった理由や、今後取り上げて欲しい課題について具体的にお書き下さい。

--

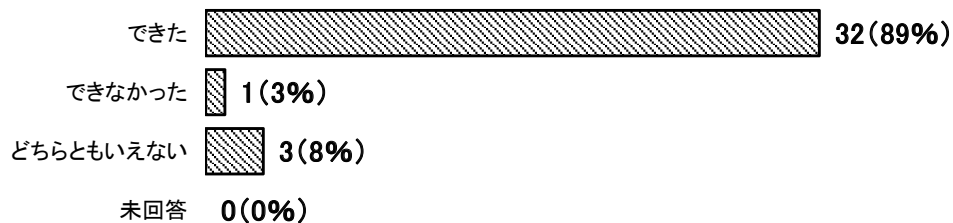
4 その他、全学教育および大学教育全般について、ご意見があればお書きください。

--

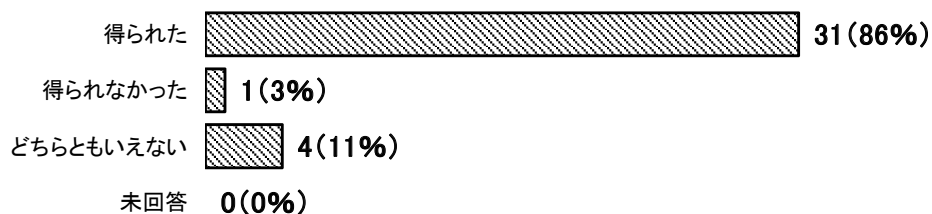
ご協力ありがとうございました。

内	東北大学教員	28名
	非常勤講師	3名
	事務職員	1名
	その他	1名
	不明	3名

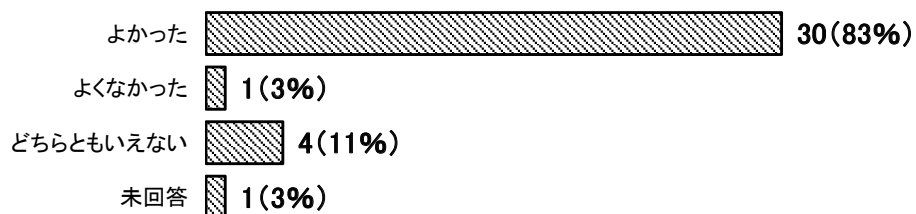
1. 全学教育FDの趣旨を理解できましたか。



2. 東北大学の英語教育について、イメージやヒントは得られましたか。



3. 今回の全学教育FDの内容・運営等についてはいかがでしたか。



★アンケートの主な自由記述

1. 全学教育 FD の趣旨を理解できましたか。

(1) できた

- 英語の話題なので、比較的内容が理解しやすく、問題意識も共感できた。
- Very thorough. Nice variety. Great speakers.
- It was easy to follow. Learning about English in the departments was very useful.
- 英語教育の改善が着実に行われていることがわかった。
- 良い取り組みを参考にできるのは良いが、全学教育の中でも語学は少人数であり、人数の多いクラスについては少々疑問である。
- 理念の共有、実践例の共有と情報取得、改善課題と方向の明確化。
- 講義に当たって事前に課題を示すことの重要性について理解。
- 目標、考え方、取りくみについて、情報を共有し、より良い教育を提供するための場であることを理解した。
- 東北大学全学教育の基本理念及び教育活動を行う上での指針を明確に理解することができたからです。また、全学教育の改善課題と方向が明確になり、今後の教育改善に活かすことができるからです。
- 学内の英語教育について、多くの取り組みがなされていることを理解できたから。
- 評価の公平性を保証する上での参考となった。

(2) できなかった

- 担当科目との関連性がない。

2. 東北大学の英語教育について、イメージやヒントは得られましたか。

(1) 得られた

- 学部の取り組みなどがわかっておもしろかった。
- 英語と初修外国語である中国語とでは、状況が必ずしも同じではないが、改革の方向性として成績評価基準の明確化と開講全クラスにおける評価の統一化が設定されていることがわかった。中国語担当教員は学外からの非常勤講師が多く、教育方針の徹底と教育実践のフィードバックが容易ではないが、参考にしたい。
- It was very informative. I learned a lot about the engineering and medical departments.
- 色々な先生方のお話が聞けて大変良かった。具体的なアイデアがいっぱいあってよかった。
- I am interested in linking my teaching to students' professional needs.
- 1－2年次の英語教育が3年次までつながっていないような気がします。どのようなにつなげていったらよいか……。もう少し1－2年次の英語が学術論文を読む、プレゼンする方向につなげていけるといいと思います。
- 教員に対しても e-learning の教材など、多く紹介すべき。
- 論文を読み、論理的に考え、論理的な文章を書き、発表し、討論する。その方法論については、日本語でも必要なはず。英語にこだわりすぎないことも必要ではないかと思います。（もちろん英語でもできることが大切だとは思う。）
- 語学担当ではないので、詳細な部分はヒントにならないが、学生に対する考え方の中で、大学としては当然である自主的な取り組みをさせるという部分で目的（目標）設定が重要であることは理解できる。
- 英語に接することの重要性。
- 工学部独自のとりくみがなされていることは承知していたが、その概要が理解できた。英B、英C、英Aを担当してきたが、特に英B、英Cとの連携ができていたことが確認できた。医学部でなされる英語教育の一部が理解できた。1年、2年の英語との関係では各学部の専門と関係するテキスト選びが大変重要だと考える。
- 学習者のニーズを把握することができた。（初修語と違って）英語でのプレゼンや英語で論文を書くことなど英語の専門性（専門英語）。
- 部局ごとの違いの大きさに考えさせられた。
- 全学・学部により、様々な取り組みが行われていることがわかった。また、取り組み前後のデータもあり、わかりやすかった。
- 東北大学の英語教育の現状と課題、具体的な取り組みがよくわかったからです。
- 特定の部局で英語教育に力を入れている様子がよくわかった。ただ、文系学部の取り組みも知りたかった。
- 東北大学の学生ですから、動機づけさえできれば（必要性を理解すれば）自発的に学習するものと期待しています。今日うかがった工学部や医学部のシステムはよく

考えられていて（しかも進化中で）すばらしいと思います。先生方の熱心さに学生がこたえてくれるといいですね。

- 他学部の在り方について、情報が得られたことは、非常に参考となった。

(2) どちらともいえない

- Too much statistics and not enough real experience.

3. 今回の全学教育 FD の内容・運営等についてはいかがでしたか。

(1) よかった

- やはり成績評価のクラス間における差異をどのように解消するかが、これから益々重要な課題になってくると思われるので、今回の英語以外の様々な科目における取り組み、あるいは問題意識について取り上げてほしい。
- I have used the PDR method before. I appreciate the fresh look and the detailed explanation. I'm looking forward to improving and updating my PDR methods.
- 工学、医学の他の学部の英語教育の特色も知りたかった。全学教育と学部教育の連携については？（全学の英語教員の出前などはありませんか？）
- Too much statistics.
- 語学教育に関して、新しい教授法の紹介。
- 研究室に配属される4年生が、どのような英語教育を大学で受講しているかがわかった。
- このようなFDを通して、全学教育の基本理念、指針を確認し、すぐれた取り組みを知ることができ、さらに、これによって、自身の教育活動を振りかえ、今後の改善に活かすことが期待できるからです。
- 良かったと思うが、本学の英語教員がもっと参加して議論するような仕組みができるとよかったと思う。
- 大変具体的なお話をうかがうことができ、参考になりました。FDとしてだけでなく、多くの教員が聴くべき内容であったと思います。
- 授業外学習の実態について。

(2) どちらともいえない

- 趣旨が理解できないので、評価できない。
- 個人の話は、面白かったが、（かつて毎行われていた）科目ごとの会議等の方が重要であると思う。

4. その他、全学教育および大学教育全般について、ご意見があればお書きください。

- Get well soon Kitahara-sensei.
- I believe there is a need to think about language education from a blank state, starting with goals and then constructing the curriculum afterwards.
- 保健学科の学術英語を全学の英語の先生と連携して行いたいです。
- 授業外学習についての先進的な取り組みがあれば参考にしたい。負荷の問題（分量や内容なども）。
- More about methods, tools and resources available for teachers. Moreover, more information on accessing resources would make this more useful.
- クラス指定の同一名称科目の成績評価について説明が欲しい。
- 英語で行う講義のための講習会にも興味あります。
- このような、講演会よりは、科目毎の打ち合わせ等に時間を割いてほしい。

教員・TAの皆様へ 平成28年度奇数セメスターに向けた 教育系情報システム 利用者講習会のご案内

教育情報基盤センターでは、平成28年度奇数セメスター授業に向けて、教員・TAの皆様を対象とした教育系情報システムの利用者講習会を下記の通り開催いたします。多数のご参加をお待ちしています。

日程・内容

4月5日（火）13時30分～16時30分

部分参加も
歓迎します

時間	内容
13時30分 ～ 13時50分	セッション1：教育系情報サービスの概要 ■ 本学の教育系情報サービスについて簡単に解説します。
13時50分 ～ 14時10分	セッション2：リバースプロキシサービス ■ 自宅などの学外から、本学の情報システムを使用するためのリバースプロキシシステムを紹介し、その利用方法を解説します。
14時20分 ～ 14時50分	セッション3：授業・学習支援用サービス ■ 本学の全学教育・学部・大学院の全授業に標準で対応している授業支援用ウェブサービス「東北大学インターネットスクール（ISTU）」を紹介し、その利用方法を解説します。 ※ H28年度より稼働予定の新ISTUシステム（仮称）に関する内容は含まれません。別途講習会を開催する予定です。
14時50分 ～ 15時20分	セッション4：外国語学習用サービス ■ 全学生・全教職員が利用可能な外国語学習用ウェブ教材「ALC NetAcademy2」の利用方法、および、CALL教室について紹介します。
15時30分 ～ 16時00分	セッション5：学生用メールサービス ■ 学生用メールサービス「DCメール」を紹介し、その簡単な利用方法を解説します。
16時00分 ～ 16時30分	セッション6：情報教育システム ■ 「情報基礎A/B」の授業担当教員・TAおよびテクニカルアシスタントを対象とする講習です。「情報基礎A/B」の講義内容およびテクニカルアシスタントの業務について簡単に解説します。

会場

川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟1階 ICL演習室1（M104）

参加申込

- ・ 前日までに、参加者の所属・氏名・内線番号を
くinfo@cite.tohoku.ac.jp> 宛に電子メールにてお知らせ下さい。
- ・ 当日の直接参加も可能です。

お願い

- ・ 各情報システムのログインには各自の東北大IDとパスワードが必要です。当日は忘れずにご用意下さい。
- ・ 東北大IDをお持ちでない場合は、当日のみ使用可能なローカルアカウントを提供しますので、参加申込時にその旨をご連絡下さい。

★ご要望により、部局単位での出張講習会の開催も承ります。お気軽にご相談下さい。

CITE

東北大学
教育情報基盤センター

Center for Information Technology in Education
Tohoku University

本件に関するお問い合わせ先

マルチメディア教育研究棟M507 基盤技術部門

022-795-7622

tech-staff@cite.tohoku.ac.jp

2016.2.26 No.14



編集：東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授 葛生政則

IEHE Report 66

第 10 回東北大学全学教育 F D ―報告書―

2016 年（平成 28 年）3 月 発行

東 北 大 学 学 務 審 議 会
東北大学高度教養教育・学生支援機構

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41 TEL 022-795-7551

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/>

FACULTY DEVELOPMENT